

十五年乙第百三十  
二號ヲ以テ住職ノ  
項追加

- 一 境外所有地
    - 耕地段別 何町字何
    - 地價金額
    - 山林段別 何町字何
    - 地價金額 何町字何
    - 宅地段別 何町字何
    - 地價金額
  - 一 檀徒人員
  - 一 住職
  - 一 管轄廳迄ノ距離里數
- 乙第百號 (明治十三年九月廿四日) 各郡町村
- 社寺及ヒ佛堂創建并ニ再興セント欲スルキハ維持方法及ヒ建物坪數等社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏佛堂ハ堂宇方六步詳記シ圖面并ニ明細書 明治十二年本縣乙第百二十一號達書式ニ依ル相添願出候様可取計
- 丙第百五十五號 (明治十三年九月廿九日) 各郡
- 客年乙第百三十一號ヲ以相達候社寺明細帳取調心得第十一項ニ依リ郡役所限リ處分セシ事件ニシテ該帳改正亦ハ記入スヘキ者ハ毎月末取纏メ當廳ヘ可届出答ニ候處兎角時日遷延ニ及ヒ其筋エ届出差問候條必期日ヲ誤ラサル様取纏メ可差出

乙第百三十六號 (明治十四年十月十四日)

各郡町村

- 社寺及ヒ佛堂創立再興復舊并ニ境内神社佛堂境外へ移轉再興ハ管テ廢セシモノヲ再ヒ建設スルヲ云フ復舊ハ管テ合併セシモノヲ云フ等出願候節ハ明治十三年乙第百五號達ニ基キ自今左ノ手續ニ依リ取調可爲差出
- 一 社寺及ヒ佛堂創立等ハ(民有地ニ建設スルモノ)神宮住職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺法類トモ)連署スル
  - 一 但佛堂ノ如キハ本寺法類之ナキニ付受持僧侶并信徒總代連署スヘシ
  - 一 社寺及ヒ佛堂創立等ヲ要スル理由并建設後施行ノ目的
  - 一 但再興復舊ハ當初廢絶或ハ合併等ノ年月并其手續詳記スヘシ
  - 一 社殿堂宇諸建物摸樣ヲ詳記スル繪圖面并目論見仕樣書ヲ添附スル
  - 一 永續資本ノ財產動産不動産等ノ細目并發願者 則爾後該社寺等一切ノ總人員記載スヘシ員數ヲ詳記スヘシ并發願者事ニ關係スヘキモノノ總人員記載スヘシ
  - 一 社寺氏子檀徒或ハ信徒ノ人員ヲ登記シ其内相應財產ヲ有スル戸主ノ人員ヲ内譯ニ記スヘシ
  - 一 境内地社寺及ヒ佛堂ノ名受若クハ人民共有名受ノ別明記スヘシ
- 乙第百號 (明治十五年八月三十日) 各郡町村
- 社寺境内樹木伐採ノ儀ハ明治六年第二百三十五號公布并十一年本縣甲第四號告諭ノ趣有之候處近來修繕ノ爲メ多分ノ材木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植ノ地ニ無之數百年來ノ古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自



今請願ノ節ハ不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査ノ上可爲願出

社寺境内伐木取扱概則

第二條 社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木目通寸間第一類トシ通り一丈以上ヲ第二類ト

シ同五尺以上ヲ第三類トシ同一尺以上ヲ第四類トシ同一尺未満ヲ第五類トス

第二條 第一類第二類ノ木ハ伐採ヲ許サス

第三條 第三類ハ總木數十分ノ一付一本ニ拾本ニ付第四類ハ同十分ノ二拾本ニ付以内伐採ヲ許ス

一ツアルハシ

第四條 第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生立ノ爲メ拔伐外伐採ヲ許サ、ルモノトス

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏ノ造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス

但必ス仕様書具申セシム

乙第百三十二號 (明治十五年十一月廿日)

各郡町村

管内神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ渉ルヘキ者ハ更ニ狀ヲ具シ出願許可ヲ受クル者トス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スルモノハ滿五年ニ再建セシメ何レモ其都度可届出若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除スヘキ筈ニ付更ニ届出候儀下可心得

但十二年本縣乙第百三十二號達社寺明細書式中神官住職ノ項ヲ加ヘ且境内遙拜所招魂社祖靈社ノ書式ヲ廢シ都テ社寺書式ニ據リ取調フヘシ

甲第百五十號 (明治十七年九月六日)

有租地中ノ各地目ヘ包含スル種類變換届出方ノ義本年甲第百四十二號ヲ以テ布達候

處社寺境内及堂宇敷地等ニ係ル分ハ其都度出願許可ノ上其手續ヲ爲スヘシ

乙第百九十號 (明治十七年十二月廿日)

各郡町村

祠宇並寺院創立再興復舊引直移轉廢合及ヒ附屬入地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財産ニ關スル諸願ハ寺院ハ本寺 法類運器長ノ添書ヲ要スヘシ

甲第百二十四號 (明治十七年十二月廿六日)

社寺寶物古文書目録中記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布之通金穀貸借等ノ抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テ如シ不得止義有之物品ノ之外地所(除稅地)建物什物抵當トナサント欲スルハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ當廳ヘ可願出尤目録帳ヘ記載セスト雖正該社寺別段ノ山緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ準スヘク且社寺ノ物件不得止義有之處分ノ節ハ明治六年第二百四十九號公布之通心得可シ

但シ從前之布達指令等本文ニ抵觸スル廉ハ渾テ取消ス

各郡町村

乙第百二十六號 (明治十八年十一月二十八日)  
明治十七年十一月本縣乙第百九十號達ハ官有地ニ係ル境内ノ異動及材木等ノ願モ該達ニ準シ管長添書ヲ要スル義ニ有之候條爲心得此旨相達候事

十八年甲第四十七號  
第百四十二號改正  
二十五年縣令第四十八號  
甲第百四十七號廢止



甲第九十七號 (明治十九年七月卅一日)  
 官有社寺境内地貸下料本年度ヨリ國幣社ハ苗木植繼費其他ハ營繕費トシテ其社寺ハ  
 下渡候條所轄郡役所へ請求スヘシ

各 郡

丙第六十五號 (明治十九年七月卅一日)  
 本年甲第九十七號ヲ以テ官有社寺境内地貸下料下渡ノ義布達候ニ付テハ該下渡料ハ  
 郡役所へ徵收シ其社寺ノ請求ニ據リ下渡スヘシ

縣令第九十七號 (明治二十年十一月十二日)  
 社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ受タル場合ニ於テ  
 ハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届  
 出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二ヶ年間ノ猶豫ヲ與フヘシ其百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ  
 不申出又ハ滿二ヶ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ刪除ス

訓第五二號 (明治廿一年二月八日)

宇摩新居周桑越智上浮穴伊郡役所  
與喜多西宇和南宇和北宇和郡役所

社寺寶物取締ノ義ハ豫テ其筋ヨリ商議ノ旨モ之有且方今本邦ノ古美術品ハ汎ク世界  
 ニ貴重セラル、ノ世運ニ際シ自然不取締ノ向有之テハ不相濟義ニ付臨時本廳吏員ヲ  
 派出シ監査セシメ保存方取締ノ爲メ該寶物ノ害ナキ餘地へ適宜檢印又ハ貼紙等致サ  
 セ候義モ可之有候條派出員監査請求ノ節ハ不都合無之様其社寺へ通達方取計ヘシ

訓第一五八號 (明治廿一年九月八日)

郡役所  
戶長役場

縣社以下ノ神社及寺院ノ寶物什器取締ノ義ニ付テハ明治十年乙第二百一號及同十二

年乙第五百五十三號ヲ以テ夫々相達置候處近年本邦ノ古美術品ハ汎ク海外ニ尊重セラ  
 ル、時運ニ際シ候ニ付一層鄭重ニ保存セサルヘカラス万一其取締方周到ナラス物品  
 散逸等致候テハ不相成義ニ付尙左ノ各項ニ據リ取締且保存致候様各社寺及氏子檀家  
 惣代へ示達スヘシ

一 寶物什器ノ牒簿ハ明治十二年本縣乙第七十號達書式ニ據リ寶物什物ヲ區別調  
 製シ神官住職等ノ私有物品ト混淆紛雜セサルヲ要ス

一 寶物及什器ハ毎夏夏季ニ於テ一回氏子惣代又ハ檀家惣代信徒等二名以上及「戶  
 長」立會處于ナナシ破損ノ分ハ修補ヲ加ヘ每個牒簿ニ照ラシテ調査スヘシ

一 前項調査濟ノ上ハ調査濟ノ證明書ヲ作り立會人ハ之ニ調印シ牒簿ニ添付保存ス  
 ヘシ

(參照)

乙第七十號 (明治十二年六月九日)

書式 用紙白美濃

某社 寶物古器物古文書目錄

一 緣起書 幾 卷

撰者及筆者ノ姓名並ニ其年月ヲ記ス

一 文 書 幾 通

百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノニテ文書ト稱スヘキ者ハ一々其目ヲ掲ケ撰



者筆者年月寄附人並傳來ノ所由ヲ記ス(以下扁額ニ至ル迄記載方皆之ニ準ス)

一 書 畫 或ハ繪卷物 幾幅或ハ幾卷

一 絹地紙地彩色墨畫等ノ別ヲ記シ繪詞等記載方都テ前ニ準ス

一 寫本或ハ寫經 幾本

一 格外貴重ナルモノハ行數紙數等ヲモ詳細ニ記載スヘシ

一 扁 額 一面

一 寸法ヲモ記ス

一 棟 札 一枚

一 年月及ヒ人名ヲ記ス

一 鏡 一面

一 銘若クハ無銘 寸法 形 鑄文 重量 年月寄附人傳來ノ所由等ヲ記ス(以下記載方皆之ニ準ス)

一 鈴 一箇

一 劍 一口

一 燒刃裝具ノ地金模様銘アラハ銘等ヲモ記ス

一 古 金 一枚

一 古 錢 一枚

一 古 印 一顆

一 印文 鈕 形等ヲモ記ス

一 甲 冑 一副

一 札威シ毛等ヲモ記ス

一 琴 一張

一 笛 一管

此他古書籍百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノ古法帖明朝摺以上ニ係ルモノ武器文具樂器珠玉石劍等ニ至ル迄各部ヲ分ケ類ヲ推シ書式ニ照ラシテ記載スヘシ且其金銀銅器ニ係ルモノハ其重量等詳細ニ記センヲ要ス

訓令第四號 (明治二十二年一月二十九日) 郡役所 戸長役場

明治十八年本縣乙第二百二十六號達中祠宇並寺院境内障礙木伐採願ニ限り自今本寺法類連署及管長ノ添書ヲ要セス

訓第二七九號 (明治二十四年六月三日) 郡市役所

一 社寺境内ノ枯損木下渡シ及其境内地貸下料金下付方ノ義ハ渾テ從前ノ通取扱フヘシ

但自今祭典ニ際シ一時使用スルモノハ其社寺ニ於テ之ヲ許可シ別段出願セシムルニ及ハス尤許可シタルトキハ其都度頓末ヲ詳記シ該社寺ヨリ當廳へ届出サスヘシ

一 前項ニ對スル收益ハ其社寺ノ收入ニ屬セシムルヲ以テ其收入財産ハ明治十四年本縣甲第五十一號布達ニ依リ整理可致様執計フヘシ

但國幣社ハ該布達ニ依リ整理セシムルノ限ニ非ラス



社寺總代人及收入財産取扱規程

明治二十四年六月十三日  
縣令第三十二號

- 一 社寺總代人ハ三名以上トス
  - 二 社寺總代人ハ氏子檀家中ニ於テ氏子檀家ナキモノハ信徒相應ノ財産ヲ有スルモノヲ互撰スヘシ
  - 三 社寺總代人定マリタルトキハ神官住職并ニ前總代人連署ヲ以テ市町村役場ヘ届出ヘシ
  - 四 社寺總代人ハ該社寺ノ願届等ハ渾テ連署スヘシ
  - 五 社寺總代人ハ滿三年毎ニ改撰ス期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ行爲アルトキハ臨時改撰スヘシ
  - 六 臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ
  - 七 社寺收入財産田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱賽儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ其社寺有ト其神官住職ニ付スルモノト豫約ヲ定メ平素混亂セザル様注意スヘシ
  - 八 官國幣社ハ前數項ニ依ルノ限ニアラス
- 訓第四三一號 (明治廿四年十二月二十一日)
- 市 町 村 役 場  
社各總代人等ノ儀ニ就テハ本年(六月)縣令第三十二號ノ旨モ有之候處該總代人ニ關シ尙左ノ通心得ヘシ
- 社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之レカ爲メ事務ヲ澁滞セシムル等ノ弊害アリト見認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信

徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得

社寺總代人ハ其社寺ノ願届等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナレトモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干渉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

參訓第一六二號 (明治二十八年四月十一日)

各郡市町村

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シテ取扱フヘシ

三訓第三七八號 (明治廿八年十月二十日)

郡 市

土地ノ情况ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テ神職又ハ寺院住職等ヲ小學校教員ニ推薦スルトキハ其兼務ヲ必要トシ又ハ學校規定ノ勤務ヲ欠ク等ノコトナキ事由ヲ詳具スヘシ尤モ其勤務ヲ欠ク等ノコトナキ事由ヲ詳具スヘシ能ハサルモノヲ推薦スヘカラサルハ勿論ノ儀ト心得ヘシ

縣社以下神社氏子信徒總代人ヨリ小學校教員ヲ其神社々司社掌ノ候補者ニ推薦シタルトキハ其兼務ノタメ教職ヲ欠ク等ノコトナキヤ否ヲ審査シ事實及ヒ意見ヲ詳細附申スヘシ

訓令第三十八號 (明治三十一年六月十八日)

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモノ多シ右ハ全ク管理不行届ノ致ス所ニシテ不都合ヲ免カレサル義ニ有之依テ管理者ハ各其管理上ノ責ニ任スヘキ



モノニ付平素特ニ注意警戒ヲ加ヘ不取締ノ義無之様深ク注意スヘシ

### 神社及神官

乾第九十四號 (明治七十九年十二月二日)

神事祭典等ノ節神明渡御ノ儀衛行列正シカラス就中種々ノ惡弊有之ニ付舊縣々以來度々相違候得共今以依然舊体ヲ不改向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候方今敬神ノ御主意ヲ奉體シ社頭傳來ノ古格ヲ正シ聊モ猥リケ間敷儀無之様厚ク相心得可申

但舊松山縣管下神興ノ儀一般白木造リノ旨相達置候處詮儀ノ筋有之取消候得共改作等ノ節ハ漸次小形ニ相造リ與丁數人ニ及ハサル様可致事

乾第三百十號 (明治八年九月廿五日)

各神社大祭年々日合ヲ異ニ致候テハ氏子共迷惑ヲ生シ甚不都合ニ付明年ヨリハ必永年不變ノ日合氏子協議ノ上決定致可届出候此段神官ノ輩へ布達候事

坤第四百十二號 (明治九年十二月十四日)

各區々戸長

縣社以下祠官掌任免ノ節社務受渡規則別紙ノ通相定候條區内神宮へ無漏可相達

縣社鄉村社

祠官  
祠官  
掌

縣鄉村社共祠官掌任免ノ節引渡條件別紙之通相定候條無遺漏授受可致此段相達候事

(明治九年十二月十四日)

(別紙)

#### 社務受渡規則

第一條 各社祠官掌交替ノ節ハ一社仕來并ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件明細簿書ヲ以申繼クヘシ

第二條 傳來ノ寶物什器古文書及一切ノ圖書簿冊寄附金山林田畑等詳細取調帳簿ヲ以新任官掌へ引渡シ互ニ授受ノ證書ヲ交附スヘシ

但授受ノ際萬一缺損等ノ物品有之目錄ニ引合サル分ハ其事故詳明記載シ縣廳へ届出ノ上目錄へ其譯記入スヘシ

第三條 一社蓄積金繼及社入賽物等ハ出納ヲ精算シ簿冊相添授受スヘシ

第四條 受渡相濟候ハ、新舊官掌氏子總代連印ヲ以諸帳簿相添届出ヘシ

引渡圖書簿冊ノ概目

但左ニ掲グル所ノ目ニ倣ヒ各社ノ便宜ヲ以テ平素精密ニ書類備置錯雜ナキヲ要ス

一 祭神記

一 鎮坐記

一 祭書類

附リ年中行事録ノ類



一 境内全圖  
 但反別ヲ詳記シ社殿及ヒ建物間敷立木敷モ記載スヘシ

一 社地沿革圖  
 寶物什器古文書々籍簿

一 山林田畑反別帳  
 但繪圖地券並立木モ記スヘシ

一 社蓄積金明細帳  
 他へ貸付置候向ハ貸付帳其他證券等ヲ添フヘシ

一 攝末社明細帳

一 社頭願伺届留

附リ社務日記ノ類

一 一社へ係ル布達々書類

一 氏子戸數簿

但各郡村ニ涉ルモノハ何郡何村ニ何戸ト記載スヘシ

甲第百廿五號 (明治十年十月十一日)

凡ソ神事ハ御國典ニ於テ輕カラサル義ニツキ諸社大小ノ祭典成ヘク古來ヨリノ定日ヲ變更致スヘカラサルハ論ヲ俟スト雖正改曆ノ後氣節ノ爽違スルヨリ農事ノ都合有之止ムヲ得スシテ伸縮スルモノ少ナカラス右ハ是迄縣廳ノ許可ヲ得テ執行致シ來ル

ノ處自今縣社以下神官ト氏子ノ協議ニ信從セシメ候條若シ變更候節ハ前以大小區務所及ヒ最寄警察署へ可届出義ト相心得ヘク此段布達候事

乙第二百一號 (明治十年十二月廿八日)

府縣社以下神社什物ノ儀自今左ノ通取締候様内務省ヨリ達相成候條此旨區内神官へ相達シ取締可致

一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

第一類 寶物古文書

第二類 祭具什器並持添ノ田畑附屬ノ建物等

右牒簿二部ツ、編製神官並氏子氏子無之向ハ該地ノ信仰惣代二名以上尙該地ノ區戸長連署調印

一部ハ「區戸長役所」へ一部ハ其社へ藏メ置ヘシ

甲第三十九號 (明治十一年三月廿八日)

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付明治九年七舊教部省甲第五號ヲ以テ神宮並官國幣社へ相達置候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之候向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度可爲届出旨今度内務省ヨリ達シ相成候條此段縣社以下神官へ布達候事

但普通祭服着用ノ者帶刀不相成義ハ勿論タルヘク尤本文帶刀候向ハ最寄警察署へ可届出事



甲第三百三十號 (明治十五年五月廿三日)  
 各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥  
 リニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止場合有之甲社ノ氏子一部落  
 擧テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署ヲ以テ可届出  
 甲第二百五號 (明治十五年九月十六日)

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官選舉ノ節該所ノ卒業証書無之者ハ皇典講究  
 所本分所ノ試験ヲ受サセ試験済ノ証書ヲ相渡候筈ニ付今後選舉出願ノ向ハ該所卒業  
 証書寫若クハ試験済ノ証書ヲ副ヘ可願出  
 甲第二百四十八號 (明治十五年十二月九日)

縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非ルモノ今後新ニ結集スルモノハ常應ヘ  
 可願出此段神官ヘ布達候事

乙第六百六十二號 (明治十七年十月一日)

警部 察町 署村

神社祭典榮典渡御ノ義ニ就テハ明治九年本縣乾第百十七號布達ノ趣モ有之候處近來  
 中ニハ多人數打寄リ神輿ヲ昇シ剩ヘ門戸ヲ破壊セシムル等ノ舉動有之趣右ハ第一敬  
 神ノ道ヲ失スルノミナラス豫テ布達ノ旨趣ニ悖戾シ不都合ノ次第ニ候條決シテ右等  
 ノ義無之様神官氏子ヘモ屹度申聞尙取締向精々注意可致  
 達丙第九一〇號 (明治二十年四月六日)

大山祇神社

本社保存ノ爲メ明治二十年年度以降十五年間左ノ金員ヲ配付ス

但從前ノ經費及ヒ官費營繕ハ十九年度限り廢ス  
 一金千四拾壹圓

訓第七〇號 (明治二十年五月六日)

神職心得及ヒ社務取扱事項左ノ通心得ヘシ  
 一 神職ハ其神社所在ノ地ニ在籍スヘシ  
 一 雇員ハ宮司之ヲ免命ス但主典缺員ノ場合ニ於テハ宮司ハ知事ノ認可ヲ經テ主典  
 ノ保給ヲ流用シ雇員ヲ使用スルコトヲ得  
 一 保存金受拂及ヒ社入金受拂精算并ニ非常豫備金及ヒ蓄積金ノ異動ハ一週年度ヲ  
 以テ各別帳ニ製シ毎年四月五日限差出スヘシ

宮司 宛

達丙第一二五〇號 (明治二十年五月三日)

大山祇神社

非常豫備金積立方法及社入金遺拂規程自今左ノ通心得ヘシ

非常豫備金積立方法

一 社入金總額一ヶ月五拾圓以上ノ向ハ左ノ割合ヲ以テ毎月引去之ヲ一社ノ非常豫  
 備トスヘシ尤通常遺拂ヲ許サス  
 但社入金一ヶ月五拾圓未滿ハ本文ノ限ニ非スト雖モ一社ノ都合ヲ以可成的積置  
 ヘシ  
 一 五拾圓以上六拾圓未滿 百分ノ一

三十年内三訓第二  
 四〇號ヲ以第二項  
 改正  
 二十一號ヲ以第九  
 號ヲ以末項改正  
 同第二九四號ヲ以  
 テ再改正



三十四年內一訓第一〇號ニテ社入金遺拂規程中改正

- 一 但六拾圓以上百圓未滿ハ拾圓毎ニ一步ヲ増ス
  - 一 百圓以上貳百圓未滿 百分ノ七
  - 一 但貳百圓以上千圓未滿ハ百圓毎ニ一分ヲ増ス
  - 一 千圓以上貳千圓未滿 百分ノ十七
  - 一 但貳千圓以上ハ千圓毎ニ一分ヲ増ス
- 社入金遺拂規程
- 一 社入金總額ノ内豫備金ヲ引去タル殘金ヲ以テ左ノ割合ニ據リ支出スヘシ
  - 一 金高十分ノ五分八厘 社 費
  - 一 但社中祭典其他諸費並神職ノ俸給及ヒ守札製造等ノ費用ニ充ツ
  - 一 金高十分ノ一分二厘 營繕費
  - 一 但境內營繕費ニ充ツ
  - 一 金高十分ノ三 分配金
  - 一 但一社司以下適宜配分スヘキモノトス

達丙第一五九二號 (明治二十年六月三十日)

大山祇神社

其社從前官營ニ屬スル箇所ニ對シ金品(物品ハ價格ヲ付ス)寄附候者有之節ハ自今其都度届出ヘ

告諭 (明治二十三年九月廿九日)

神社祭典神輿渡御ノ儀ニ付テハ明治九年乾第百十七號ヲ以テ及布達置候得共今以從

前ノ惡習ヲ脱セス爲ニ其儀衛行列ヲ亂スノミナラス神輿ヲ以テ他人ノ門戸ヲ毀傷シ或ハ庇障ヲ破壞シ若クハ人家ニ亂入スル等頗ル不穩ノ舉動ヲ爲スモノ有之趣ニ相聞ヘ候處右ハ敬神ノ道ヲ失ヒ且豫テ布達ノ旨趣ニ背戾シ不都合ノ次第ニ候條神官氏子ニ於テ厚ク敬神ノ旨趣ヲ奉體シ社頭傳來ノ古格ヲ正シ決シテ右等猥リノ舉動無之様特ニ注意スヘシ

大山祇神社々務所

訓第五四五號 (明治二十三年十二月十七日)

- 一 官國幣社保存金區分并ニ取扱方左ノ通相定ム
- 一 本トシ二分五厘ヲ各社共通非常臨時ノ營繕費トス
- 一 但經費及經常營繕費七分ノ六ヲ經費トシ七分ノ一ヲ經常營繕費トス尤モ經常營繕費ハ營繕ノ都合ニ依リテハ經費金ヨリ該費ヘ流用支辨スルコトヲ得
- 一 經費及ヒ經常營繕費仕拂殘金并ニ永遠資本各社共通非常臨時營繕費ハ總テ中央金庫(本支金庫)ヘ直チニ預ケ入レ毎月末其預ケ入金額ヲ報告スヘシ
- 一 經費及ヒ經常營繕費仕拂殘金ハ翌年度該費ノ臨時補充ニ充テ永遠資本ハ利倍増殖ノ方法ヲ以テ永遠ノ保存金ト爲スヘシ
- 一 各社共通非常臨時營繕費ハ更ニ各社ノ共有トシテ別段ノ積立ト爲シ風火災等非
- 一 常ノ破損ニ際シ臨時營繕費仕拂フヘキモノトス
- 一 二十年度以後既ニ積立タル保存資金ハ前項永遠資本ノ部ヘ差加ヘ積立ルモトス

三十四年內一訓第一〇號ニテ第一項中改正  
 三十四年內一訓第一〇號ニテ第二項中改正  
 三十四年內一訓第一〇號ニテ第一項中改正  
 三十四年內一訓第一〇號ニテ第二項中改正  
 三十四年內一訓第一〇號ニテ第一項中改正  
 三十四年內一訓第一〇號ニテ第二項中改正



三十四年訓第一〇五號ニテ本項削除  
一號ヲ以テ第七項  
中ハ二十一ノ字ヲ挿  
入シ及但書中改正  
三十四年内一訓第  
一〇五號ニテ第七項  
中改正  
二〇四年訓第二五  
五號ヲ以テ但書改  
正

- 一 三十四年内一訓第一〇五號ニテ本項削除
- 一 營繕ハ工事ヲ要スル時仕様目論見帳ヲ以テ宮司ヨリ出願シ經常營繕ハ常廳ノ許可ヲ受ケ臨時營繕ハ一府縣内各社(若クハ最寄神社)宮司ノ連署ヲ以テ常廳ヲ經由シ内務省ノ許可ヲ受クヘシ其臨時營繕費ニ就キ預金局ヨリ拂戻シヲ爲シタル金額ハ其都度常廳へ届出ツヘシ
- 但臨時營繕費ハ官幣大社一社ニ付金七千四百圓以内官國幣中社一社ニ付金五千五百圓以内官國幣小社并ニ別格官幣社一社ニ付金參千七百圓以内ヲ以テ一ケ年度内支出ノ標準トス尤モ出願多分ニシテ支出金額差支ユル時ハ其出願ノ順序ニヨリ翌年度ニ於テ支出スルコトアルヘシ
- 訓第四號 (明治二十四年一月九日) 大山祇神社社務所
- 客年<sup>十二</sup>訓第五四五訓令ハ二十四年度ヨリ施行スヘシ
- 右訓令ス

- 訓第一二三號 (明治二十四年三月十二日) 大山祇神社々務所
- 明治二十三年<sup>十二</sup>訓第五四五號訓令官國幣社保存費中臨時營繕費ニ相當スル金額取扱手續左之通相定ム
- 一 官國幣社保存費中臨時營繕費ニ相當スル金額ハ内務省ヨリ總代ニ交付シ總代ハ直ニ之ヲ大藏省預金局へ預ケ入ヲナスモノトス
- 但臨時營繕費ノ收支ハ東京ニ松テ之ヲ取扱フモノトス

- 一 内務省ニ於テ臨時營繕費ノ支出ヲ許可セシ場合ニ於テハ社寺局長ヨリ其旨ヲ總代ニ通知スルモノトス
  - 一 總代ハ右ノ通知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ預金局ヨリ受戻シ直ニ爲替ヲ以テ其神社へ送付スルモノトス
  - 一 總代ハ金額ヲ受ケタル神社宮司ヨリ領收証書ヲ出サシメ其旨ヲ内務省ニ報告スルモノトス
  - 一 總代ハ毎年度ノ始メニ臨時營繕費前年度ノ計算書ヲ製シ内務省ニ報告スルモノトス
  - 一 總代ハ内務省へ報告シタル上便宜ノ手續(新聞紙ニ掲載又ハ他ノ方法ニヨル)ヲ以テ各社へモ報告スルモノトス
- 縣鄉村社神官奉務規則 明治三十四年七月十八日 訓令第八十號 縣鄉村社神官
- 第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ
  - 第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決シテ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲之神賑等ハ適宜行フコトヲ得
  - 但臨時祭ヲ行ハントスルハ所轄警察署又ハ分署へ届出可シ
  - 第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アル可カラズ
  - 第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚



穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス

第六條 神官ハ神社所有之財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

訓令第八十四號 (明治二十四年七月二十四日)

縣鄉村社神官

今般本縣訓令第八十號ヲ以テ神官奉務規則改正セラレ候ニ就テハ右規則ノ趣旨ニ基キ適宜ニ神官取締規約ヲ設ケ速ニ當廳ノ認可ヲ請フヘシ

官國幣社職奉務規則

明治二十四年八月廿五日  
訓令第九十二號

官國幣社神職

第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國体ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ

第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアラサレハ成規ノ時間ヲ獲リニ伸縮スヘカラス

第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコト

ヲ得

第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖モ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス

第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ様監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖モ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ

第九條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

訓令第百十一號 (明治廿四年十一月十四日)

縣社以下神官

縣社以下神官ニシテ從前其筋ヨリ附與セシ假學證所持スルモノハ其授與ノ月ヨリ滿五年ヲ有効期限ト定メラレ候ニ就テハ右期限經過ノ向ハ總テ學階授與規則ニ依リ更ニ來ル明治二十五年十二月迄ニ試験ヲ受クヘシ

但試験期日後ニ至リ其期限經過セシ向ハ其都度本文ノ手續ヲ爲スヘシ



内訓第一九號 (明治二十五年八月十七日)

神社ニ奉仕スル者ハ品行方正ニシテ相當ノ學力ヲ有シ平素敬神ノ意ニ厚ク兼テ本邦ノ古典舊儀ニ通シ各其奉務規則ニ對スルノ實績ヲ擧クヘキヲ要スルヲ以テ縣社以下祠官掌八十五年<sup>九</sup>本縣甲第二百五號布達ニ依リ其學術性行ヲ審查ニ適當ノ人物ヲ採擇スルヲ以テ大體ノ旨趣トセリ然ルニ近來舊神官若クハ祠官掌志願者ノ中本年<sup>三</sup>內務省訓令第五號明文ノ旨趣ヲ誤解シ學術性行ヲ重ンセス間々競争心ヲ起シ或ハ其弊タル多數ノ氏子等ニ波及スルヤノ聞ヘ有之以ノ外ノ事ニ候元來右等特別ノ例ヲ設ケラレタルモ學術性行ヲ措テ顧ミサル旨趣ニ無之特別例中學術性行等適當ノ人物ヲ得テ敬神ノ實ヲ擧ケ保存ノ途ヲモ立シメラル、ノ精神ニ外ナラス候條心得違無之様支所長副長及重立神官等へ篤ト訓諭ヲ加ヘ撰舉出願ノ際ハ一層注意セラルヘシ

大山祇神社官司

神官取締本所長宛

三訓第二〇八號 (明治廿四年五月十六日)

各 山 郡  
松 市 郡

官國幣社以下大祭及公式祀ノ順序左ノ通被相定候條縣社以下へ達方取計フヘシ

- 第一條 官幣社及國幣社ノ大祭ハ左ノ通り定ム
  - 一 祈年祭
  - 二 新嘗祭
  - 三 例 祭
  - 四 臨時奉幣式
  - 五 本殿遷座

第二條 官幣社及國幣社ノ公式ノ祭祀ハ左ノ通り定ム

- 一 元始祭
  - 二 紀元節
  - 三 大 祓
  - 四 遙拜祭
  - 五 假殿遷座
  - 六 神社ニ特別ノ由緒アル祭祀
- 第三條 府社縣社以下ノ神社ノ大祭及公式ノ祭祀ハ官幣社及國幣社ニ準スヘシ
- 三訓第二四〇號 (明治廿七年六月廿日)
- 大山祇社々務所
- 其社保存金ノ内永遠資本金ニ限り自今一期渡トシテ毎年度始メニ悉皆下付候條利殖上ノ精神ニ悖ラサル様注意取扱フヘシ
- 但本年度ハ第二期以降三期分此際下付ス
- 訓令第三十七號 (明治廿八年七月四日)
- 郷社以下神社

制札雛形 (寸法適宜)

定

- 一 車馬ヲ乘入ル事
  - 一 魚鳥ヲ捕フル事
  - 一 竹木ヲ伐ル事
- 右條々於境內令禁止者也



年號月日

愛媛縣

訓令第三拾九號 (明治廿八年八月三十一日)

縣社以下神社神職

神職奉務中死亡シタル場合ハ其時々氏子總代三名以上連署ヲ以テ其旨當廳ヘ可届出  
ハ勿論ニ候處右ハ自然其届出ヲ怠タル向モ有之不都合ニ候條自今ハ必ス其時々届出  
ツヘシ

官國幣社神職試驗規則

明治二十八年九月二十八日  
告示第百三十七號

第一條 宮司權宮司ハ高等試驗合格ノ者爾宜主典ハ尋常試驗合格ノ者ヲ以テ之ニ補  
ス

第二條 年齡二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサルモノハ神職試驗ヲ  
受クルコトヲ得

一 重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權シ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償  
ヲ終ヘサル者

第三條 高等試驗ハ內務省ニ委員ヲ置キ之ヲ施行ス尋常試驗ハ各地方廳ニ委員ヲ置  
キ施行スルモノトス

第四條 高等試驗合格者ニハ內務省ヨリ尋常試驗合格者ニハ地方廳ヨリ合格証書ヲ  
付與スヘシ

第五條 試驗ヲ施行スルトキハ豫メ其試驗期日及場所等ハ其時々官報又ハ新聞紙其

他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條 試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

高等試驗科目

六國史

口述  
筆答

全義解

同上

延喜式

同上

萬葉集

同上

法曹至要抄

同上

現行神社法令筆答

作文

立命  
公文  
體

算術

尋常試驗科目

古事記

口述  
筆答

土佐日記

同上

職原抄

同上

祝詞式

同上

現行神社法令筆答

作文

祝詞  
公文  
體

算術

第七條 試驗ニ關スル細則ハ委員之ヲ定メ內務大臣ニ報告スヘシ

第八條 尋常試驗問題ハ試驗施行前豫メ內務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第九條 左ニ掲グル者ハ試験ヲ要セス試験委員ノ銓衡ヲ經テ宮司權宮司ニ補スルコ  
トヲ得

一 維新前十代以上其神社ニ奉仕セシ重立タル神職ニシテ維新後引繼キ奉仕セシ  
者ノ相續人



- 二 其神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世ニ於テ功蹟顯著史乘ニ著名ナル者ノ相續人
  - 三 滿五年以上判任官五級俸以上奉職セシ者
  - 四 神官權禰宜以上在職ノ者
  - 五 舊教導職權少教正神道ノ分ニ限ル以上ニ補セラレシ者
  - 六 滿十年以上禰宜ヲ奉職シ其功勞顯著ナル者
  - 七 神宮皇學館本科卒業ノ者
  - 八 皇典講究所學楷學正ヲ有スル者
- 第十條 左ニ掲グル者ハ試験ヲ要セス試験委員ノ銓衡ヲ經テ禰宜主典宮掌ニ補スルコトヲ得
- 一 維新前五代以上其神社ニ奉仕セシ神職ニシテ維新後引繼キ奉仕セシ者ノ相續人
  - 一 滿五年以上判任官以上在職ノ者
  - 三 神宮々掌以上在職ノ者
  - 四 舊教導職權大講義神道ノ分ニ限ル以上ニ補セラレシ者
  - 五 神宮皇學館本科及ヒ專科卒業ノ者
  - 六 皇典講究所學階三等司業以上ヲ有スル者
- 第十一條 滿五年以上官國幣社神社ヲ勤メ退職シタル者ハ試験ヲ要セス前職同等若クハ其以下ノ神職ニ補スルコトヲ得

第十二條 滿五年以上雇員トシテ同一神職ニ奉職シタル者ハ試験委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其神社ノ主典宮掌ニ補スルコトヲ得

附 則

第十三條 此規則施行前ヨリ現ニ官國幣社ノ神職タル者ハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得

第十四條 此規則ハ官幣小社波上宮別格官幣社靖國神社ニ限り之ヲ施行セス

社司社掌試験規則

明治二十八年九月二十九日 縣令第五十六號

第一條 社司社掌ノ試験ヲ受ケントスルモノハ其年齡滿廿年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサルモノハ試験ヲ受クルコトヲ得

- 一 重罪輕罪ヲ犯シタル者
- 二 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權セス又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘタル者

第二條 試験ヲ執行スルトキハ豫メ其試験期日及場所等ハ其時々官報又ハ新聞紙其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 社司ノ試験科目左ノ如シ

|     |    |     |            |
|-----|----|-----|------------|
| 古事記 | 口述 | 職原抄 | 全上         |
| 祝詞式 | 筆答 | 作文  | 祝詞體<br>公文體 |
|     | 全上 |     |            |



現行神社法令筆答

算術四則

第四條 社掌ノ試験科目左ノ如シ

古事記上卷 口述 筆答  
作文 祝詞式 公文體

祝詞式 全上  
現行神社法令筆答

算術四則

第五條 試験合格者ニハ合格証書ヲ付與ス

訓令第四十八號 (明治廿八年十二月八日)

縣社以下神社神職

神職交代ノ節ハ速ニ其ノ社務ヲ引繼キ其物品等ヲ併記寶物古文書及什器ヲ區別シタル明細ナル目錄帳ヲ添ヘ明治九年十二月十四日付本縣達社務受渡規則第四條ニ依リ其旨可届出答ノ處往々其届出ヲ怠タル向モ有之不都合ニ候條自今ハ右引繼ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ必ス届出ヘシ

內三訓第二八八號 (明治廿九年七月廿八日)

大山祇神社々務所

明治二十一年十一月二十四日付伺社入金遣拂流用ノ件ニ對シ同月二十九日付指令及ヒ置候處右ハ詮議ノ次第有之當分ノ内假流用ヲ要スル場合ハ其事實ヲ詳記シ明細ナル仕譯書相副其都度當廳ノ許可ヲ請フヘシ

訓令第四十二號 (明治廿九年八月廿二日)

官國幣社  
縣社以下神社

官國幣社并ニ縣社以下神社所有ニ係ル版權、地所、建物、國債証券、商事會社株券ノ類

明治三十年訓令第三十六號ニテ社務所ノ三字ヲ删除ス

ニシテ向後漸ニ登錄シ若クハ登錄ヲ變更スル場合ニ於テハ渾テ其神社ノ名ニ於テ登錄ヲ請フヘシ

內三訓第四一七號 (明治廿九年十一月六日)

大山祇神社々務所

明治十五年十一月十八日付内務省社寺局第二百二十九號ヲ以テ官國幣社々入金ノ内ヨリ皇典講究所へ出金ノ件各神社へ通知ノ次第モ有之候處右ハ自今廢止セラレ候ニ就テハ將來社入金ノ内ヲ以テ皇典講究所へ寄贈セントスル向キハ其旨願出當廳ノ許可ヲ請フヘシ

但本文許可ヲ受ケタル場合ニハ別段内務省ノ命令ヲ要セス

內三訓第一四九號 (明治卅年四月十三日)

國幣中社大山祇神社

其社從前官營ニ屬スル個所ニ對シ金穀財産ヲ寄贈シタルモノ有之節ハ其都度可届出答ニ候處明治二十年度以降ハ保存金ヲ以テ支辨スヘキ經費及營繕費ヲ補充スル爲メ金穀財産ヲ寄附シタルモノモ前同様其都度届出ヘシ

內三訓第一五一號 (明治三十年四月十三日)

國幣中社大山祇神社

官國幣社保存費中各社共通營繕費ニ係ル保管及其收支共本年四月一日以降本年勅令第五十四號ニ依リ内務省社寺局長ニ於テ取扱候從前總代官司へ差出シ候該費請求書ハ示後該局長宛ヲ以テ請求候義ト心得ヘシ

內三訓第一六一號 (明治三十年四月二十一日)

國幣中社大山祇神社

自今其社官司ニシテ職務上調製スヘキ書面ニハ明治八年太政官第百十號達ニ準シ職



印ヲ押用スヘシ

訓令第三十五號 (明治三十年四月廿三日)

縣社以下神社神職

自今縣社以下神職ニシテ其職務上調製スヘキ書面ニハ明治八年太政官第百十號達ニ準シ職印ヲ押用スルコトヲ得

內三訓第一七九號 (明治三十年五月十日)

國幣中社大山祇神社

其社宮司ノ旅行ニ關スル規定左之通定ム

第一條 旅行ヲ爲サントスルトキハ第二條ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テ當廳ニ稟請シ其許可ヲ受クヘシ

第二條 一泊ニ止ル私費旅行又ハ賜暇中私費旅行若クハ忌引中歸省ハ稟請ヲ要セス當廳ニ届出テ旅行スルコトヲ得

第三條 宮司ノ稟請及届出ハ旅行ノ事故日數地名等ヲ詳記スヘシ

第四條 社務ニ由リ旅行スルモノ、外總テ私費ヲ以テ支辨スルモノトス

旅費ハ保存金(經費)及社入金ヨリ之ヲ支出スヘシ

第五條 旅行ニ關スル從前ノ規則ハ總テ廢止ス

右訓令ス

官國幣社神職

訓令第十三號 (明治三十一年二月九日)  
神職ハ純潔ニシテ專ラ神明ニ奉仕スルモノナルヲ以テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加盟シ選舉ノ競争ニ關與スヘカラサル事ハ從前屢々訓戒スル所ナルニ依リ平素職掌ヲ嚴守シ

苟モ心得違ノ舉動ナカルヘキハ勿論ナリト雖モ今回衆議院議員總選舉ニ際シ自己ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接ト問ハス之ニ干預スル事アリテハ本人失職ノ責ヲ免カレサルノミナラス爲之選舉ノ公正ヲ失シ徒ニ紛擾ヲ増加シ不都合ノ義ニ付此際各自警省シ不都合ノ行爲無之様特ニ注意スヘシ

訓令第二十二號 (明治三十一年三月八日)

官國幣社神職

教宗派ニ屬スル教師ニシテ神社ニ於テ布教ヲナス者往々有之哉ニ相聞候處右ハ神社ヲ以テ宗教ニ混同スルノ嫌有之管理上不都合ニ候條以後神社ニ於テ右等ノ所業無之様取締方特ニ注意スヘシ

內三訓第三四六號 (明治三十年九月廿七日)

國幣中社大山祇神社

官國幣社建物等改修ノ爲メ各種共通非常臨時營繕費ノ支出ヲ要スル場合ハ其不用ニ屬スヘキ古材其他物件ノ賣却代金ヲ見積リ該金ヲ改修費ニ組込ミ出願スヘシ

告示第二十一號 (明治三十三年一月十三日)

愛媛縣々社以下神職取締規約左ノ通更正願出之ヲ認可セリ

愛媛縣々取締下神職取締規約

第一條 本規約ハ明治二十四年本縣訓令第八十號及第八十四號ノ旨趣ニ基キ縣內縣社以下神職總會ニ於テ議定シ本縣知事ノ認可ヲ得テ履行スルモノナレハ縣內縣社以下神職ハ必ス之ヲ遵守スヘキモノトス

第二條 縣內ノ神職ヲ總轄スル處愛媛縣々社以下神職取締所ト稱シ事務所ヲ松山市



ニ置ク

第三條 縣内ノ神職ヲ分轄スル所ヲ愛媛縣々社以下神職何支所ト稱シ一郡市ニ一ヶ所ヲ置クモノトス其事務所ハ支所ニ於テ之ヲ定メ本所及所屬郡市役所へ届出ツルモノトス

但シ情實止ヲ得サル場合ニ於テ取締所長ノ認可ヲ得テ分合スルモ妨ナシ

第四條 本所役員ハ所長一名副長一名幹事四名書記一名トシ支所役員ハ支所長一名副長一名幹事一名トス

第五條 本所役員(書記ヲ除ク)ハ總會ニ於テ之ヲ選舉シ縣廳へ届出ツルモノトシ支所役員ハ部内神社互選ヲ以テ之ヲ定メ本所及支所屬郡市役所へ届出ツルモノトス本所書記ハ所長之ヲ任免スルモノトス

第六條 本支所役員(書記ヲ除ク)ノ任期ハ二ヶ年トス

第七條 本所長ハ縣内神職取締上一切ノ事務ヲ管理シ副長ハ所長ヲ補佐シ所長事故アルトキハ之ヲ代理シ幹事ハ上職ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ書記ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事スルモノトス

第八條 支所長ハ部内神職取締上一切ノ事務ヲ管理シ副長ハ所長ヲ補佐シ所長事故アルトキハ之ヲ代理シ幹事ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌理スルモノトス  
第九條 本所役員ハ縣内ヲ巡回シ神職奉務ノ狀況ヲ視察スルモノトス

第十條 支所長ハ部内神職候補者ノ推薦書及神職ノ退職願ニ連署シ並ニ神職ヨリ本所へ差出書面ニ奥書スルモノトス若シ意見アリテ連署又ハ奥書スヘカラスト認ムルトキハ意見書ヲ添付スルモノトス

第十一條 支所長ハ前條神職候補者推薦書ニ連署ノ際直ニ候補者ノ履歷書寫ヲ本所へ差出スモノトス若シ本所長ニ於テ意見アルトキハ意見書ヲ縣廳へ差出スモノトス

第十二條 支所長ハ神職候補者タル者ヨリ書式第壹號ノ誓約書ヲ差出サシムルモノトス  
但シ他社兼務ノ候補者タル者ニ就キテハ本文ノ限ニアラス

第十三條 支所ハ毎年三月書式第二號ニヨリ勤務表ヲ調製シ之ヲ本所ニ差出スモノトス  
第十四條 本所ハ毎年四月總會ヲ松山ニ開設シ左ノ諸件ヲ舉行スルモノトス  
但シ時宜ニヨリ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

- 一 前年間ニ於テ處理セシ重大ナル事務ノ報告
- 一 本所經費收支豫算ノ議定及前年度收支精算ノ報告
- 一 役員ノ選舉
- 一 其他議事

第十五條 前條ノ總會ニハ各支所ヨリ代議員二名以内出席セシムルモノトス



第十六條 本所及支所ノ役員ハ常ニ所轄内神職ヲ監督シ職務上不都合ノ行爲ヲ發見セシトキハ事情ヲ具シテ縣廳へ上申スルモノトス

第十七條 支所ニ於テ事務執行上内規ノ必要アル時ハ之ヲ定メ本所ノ承認ヲ受クルモノトス

附 則

第十八條 本規約ハ總會ノ決議ヲ經知事ノ認可ヲ得ルニアラサレハ更正スルコトヲ得ス

書式第一號

誓 約 書

私義今般本縣何郡何村大字何社格何神社社司候補者ニ推薦セラレ候處右補命相成候ハ、愛媛縣々社以下神職取締規約ヲ堅ク遵守シ決シテ違背不致候依テ誓約書如件

年 月 日

何縣何郡何村大字何身分

何 某

保 証 人

愛媛縣々社以下神職取締所長何某殿  
書式第二號

明治何年自何月至何月勤務表

何郡何支所

| 勤務<br>情 况 | 集 會 | 無 不<br>參 居 | 講 社 | 講 社<br>神 德 講 議 | 本 所<br>出 金 | 住 所<br>出 金 | 住 所<br>職 名 | 姓 名 |
|-----------|-----|------------|-----|----------------|------------|------------|------------|-----|
|           |     |            |     |                |            |            |            |     |

内一訓第三六號 (明治三十四年二月一日)

國幣中社大山祇神社

其社各種蓄積金ハ爾今左ノ各項ニ依リ管理スヘシ但保存金中經費及經常營繕費仕拂殘金并永遠資本金ニ付テハ本文ニ依ラス從前ノ通管理スヘシ

- 一 各種蓄積ノ金錢、証券、株券、等ニシテ從來中央金庫(本支金庫)又ハ日本銀行ニ預ケ入レ又ハ保管委託ヲナサ、ルモノハ凡テ中央金庫(本支金庫)又ハ日本銀行へ預ケ入レ又ハ保管委託スヘシ
- 一 特別ノ事情ニ依リ前項ニ依リ難キモノアルトキハ預ケ入又ハ保管委託ヲナサントスル銀行ヲ指定シ認可ヲ請フヘシ
- 一 前二項ニ依リ難キ特別ノ事情アルモノハ狀ヲ具シ伺ヒ出スヘシ
- 一 前各項ニ於ケル金庫又ハ銀行へノ預ケ入レ及保管委託ハ其神社宮司ノ職名ヲ以



テ之ヲナシ其預替へ引出シ委託替等ヲナス場合ハ本官若クハ代理官ノ副書ヲ請フヘシ

一 従前ノ官理方法ニシテ第一項ニ該當セサルモノハ明治三十四年二月十五日マテニ預ケ入レ又ハ保管方ヲ第一項ノ通り更改スヘシ若シ全日マテニ其手續ヲ履行スルコト能ハサルトキハ期日ヲ定メ許可ヲ請フヘシ

一 前項ノ預ケ入レ及ヒ保管ヲ委託セルモノハ其現金高并ニ債券ノ種類金高ヲ記シ預ケ入レ及ヒ保管ヲ委託シタル金庫(本支金庫)銀行等ヲ直ニ届出ツヘシ但示後預ケ入レ及ヒ保管委託ノ場合ハ其都度本文ノ通り届出ツヘシ

### 寺院及僧侶

乾第四十八號 (明治七年四月廿九日)

修驗宗被廢止候ニ付兩本宗へ歸入ノ者示後之ヲ目スルニ妻帶派ノ稱ヲ以テシ或ハ歸入ニ付改テ剃度ヲ受且更ニ本寺ヲ設ルニ非レハ歸入ノ實ヲ成サ、ル義ト心得違候者往々有之趣右ハ抑公令ノ旨趣本宗歸入ハ從來ノ本寺所轄ノ儘僧侶蓄髮妻帶ハ諸宗一般各自ノ自由ニ任セラル、ノ譯ニテ聊其宗規ヲ以之ヲ束縛シ之ヲ殊別スルノ筋無之候條一同此旨相心得以后方向ヲ誤ラス候様可致此段天皇眞言兩宗諸寺院へ布達候事  
乾第六十號 (明治七年五月卅一日)

諸寺院ヨリ差出候願届ヲ始メ諸書面名前肩書へ必「何大區何小區」何郡何(町村)何

宗何派或ハ何職ト詳細記載シ差出可申候此段管下諸寺院へ布達候事

乾第四十六號 (明治九年四月八日)

今般教部省第十五號ヲ以各管内寺院諸願届等宗名ヲ脱スル向往々有之取調筋差支候ニ付自今諸願届共總テ宗名記載可爲致旨達有之候條本廳へ差出候分モ右同様ト相心得可申此段各寺院へ布達候事

乾第八十七號 (明治九年六月廿日)

今般教部省達書第二十一號ヲ以僧尼編籍ノ儀昨八年<sup>十一月</sup>内務省第百五十一號達書ニ據リ各自本籍爲相立候上ハ住職中其寺院へ居住ノ儀總テ従前ノ通可心得旨達有之候條此段寺院へ布達候事

乙第百五十三號 (明治十二年五月廿四日)

郡 町村

寺院附屬ノ佛器什物ノ儀ニ付明治五年舊教部省達ノ旨モ有之候得共兎角不都合不抄候條左ノ通相心得取調候様寺院へ相達シ取締致スヘク此段相達候事

但伊豫國ハ明治九年當縣坤第三十六號達ハ消滅候義ト可相心得事

一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名ヲモ記入スヘシ

第一類寶物古文書

第二類佛具什器並持添ノ田畑附屬ノ建物等

右牒簿二部ツ、編製住職及檀家<sup>檀家ナケハ講中</sup>總代二名以上並ニ法類連書調印ノ上部ハ「戸



長役所へ一部ハ其寺院へ藏入置クヘシ  
乙第百十四號 (明治十三年十月廿日) 郡町村

眞宗本願寺派ニ於テ説教場設立並教會結社ノ儀未派ノ者ヨリ出願候節教務上取締ノ都合有之趣ヲ以テ自今管長添書可致旨這般本派管長ヨリ掛合越候條爾後右添書無之分ハ受理セサル儀ト可相心得

甲第四十九號 (明治十七年三月二十八日)  
寺院佛像他管持出開帳ノ義ハ不相成筈ニ候處自今右等ノ向ハ該寺住職檀家總代無檀家ノ徒總而及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願スヘシ

但寶物持出ハ相ナラズ  
乙第二百十八號 (明治十七年十二月廿六日) 郡町村

本年本縣乙第百九十號去以テ管長添書ノ義相達候處京都府下眞宗本願寺住職大谷光尊義今般眞宗本願寺派管長相勤候ニ就テハ該末寺願書へハ別段本寺住職ノ廉連署致サル旨其筋聽許相成候趣申越候條爲心得此旨相達候事  
訓第三九五號 (明治二十一年十二月三日) 石手寺太山寺

其寺保存資金每年末計算書別紙書式ニ據リ翌年一月五日限差出スヘシ

古寺保存資金年末計算(明治何年)何郡何町(村)何寺

|    |                           |   |
|----|---------------------------|---|
| 種類 | 下賜金又ハ前年越金                 | 計 |
|    | 年賦寄附金                     |   |
|    | 一時寄附金                     |   |
| 受  | 何公債證書當籤元金                 |   |
|    | 公債利子                      |   |
|    | 預ケ金利子                     |   |
|    | 何々                        |   |
| 計  |                           |   |
|    | 何公債買入 <small>(額面)</small> |   |
|    | 何公債買入 <small>(全)</small>  |   |
|    | 何所へ預ケ金                    |   |
|    | 何所修繕費                     |   |
|    | 何々                        |   |
| 拂  |                           |   |
| 金  |                           |   |
| 計  |                           |   |



|   |    |                          |
|---|----|--------------------------|
| 計 | 現在 | 現金                       |
|   |    | 何公債證書額面<br>何所へ預ケ金<br>何々々 |

一 本表中利子歩通並當籤公債整理公債ニ交換等詳記シ難キ廉ハ備考ヲ設キ記載スヘシ

一 舊公債證書ハ殘額等ヲ記載スヘシ  
訓令第四十一號 (明治廿九年八月十四日) 寺 院

寺院境内取締上必要ナル場合ニ限り左ノ雛形ニ依リ其寺院ニ於テ便宜制札ヲ建設スルコト得此場合ニ於テハ之レト同時ニ其旨届出ヘシ

制札雛形(寸法適宜)

- 一 車馬ヲ乗入ル事
- 一 魚鳥ヲ捕フル事
- 一 竹木ヲ伐ル事

右條々於境内令禁止者也

年 號 月 日 愛 媛 縣

第十八類 賞恤

褒賞

警第千百二號 (明治十四年一月十九日)

一般人民ニシテ警察上ニ功勞有之賞狀下附之節其辭令ハ所管郡長ヨリ授付シ來候處自今ハ左ノ手續ヲ以テ警察署又ハ分署所轄ノ人民へ直チニ授付可致

第一條 辭令書渡方ノ義ハ其所轄ノ警察署又ハ分署ヨリ直ニ其人民ヲ呼出辭令書本人へ授付シ成丈本人ノ便宜ヲ得候様注意スヘシ然シテ警察署ニ於テ其辭令文ヲ謄寫シ郡長へ通知スヘシ

第二條 賞狀下付ノ上ハ賞與文署前揭示場へ旌表スヘシ

訓第二五號 (明治二十三年二月五日) 郡 市

小學校ノ設置ヲ指定シタル市町村ニアリテハ其小學校ヲ設置支持スル爲ノ設置區域ト等シキ市町村ノ金穀物件ヲ充用スルハ素ヨリ寄附ト認ムヘキモノニ無之ヲ以テ明治十六年一月第一號布告ニ據リ賞與スヘキ限リニアラサル儀ト心得ヘシ

訓令第七十七號 (明治二十四年七月十四日) 市 町 村

醫師無謝儀ニテ貧民患者施療施藥又ハ施種痘ヲ爲タル者ハ其醫師ノ住所氏名並ニ施療施藥又施種痘ヲ受ケタル者ノ住所氏名及ヒ藥品ノ數量並ニ其代價(種痘ハ手數料)ヲ記シ翌年一月中市ハ市長ヨリ町村ハ町村長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ賞與方上申スヘシ



訓令第二十九號 (明治三十一年四月二日)

郡市町村

褒章條例ニ該當スルモノ具申之節ハ自今左ノ要件ヲ具備シ市長ハ直ニ町村長ハ郡長ヲ經テ具申スヘシ

但明治十六年本縣令第五十一號達ハ廢止ス

褒章條例該當者具狀取調要件

- 一 住所族籍
- 一 官位勳等
- 一 姓名年齢
- 一 受賞受刑ノ有無賞罰共其全文ヲ記スヘシ
- 一 履歷書
- 一 郡長ノ具狀書本項ハ郡長於テ町村長ヨリ呈出ノ具申ニ依リ尙精査ノ上具狀書添付スルモノトス
- 一 戶籍寫
- 一 褒章又ハ褒狀金品ヲ賜ハルヘキ要旨
- 一 人命救助者
- 一 最モ危難ト見認ムヘキ實況
- 一 數人ニシテ救助セシ場合ニ於テハ其内最モ先盡力ノ者ヨリ甲乙ノ區別
- 一 水難者ヲ救助スルモノハ游泳シテ其所ニ到リシヤ又ハ舟符或ハ助綱等ヲ以テセシヤノ區別

水難者ト救助者ノ船又ハ陸トノ距離及ヒ河海ノ淺深廣狹水勢ノ緩急等

德行 者

性質品行及平素ノ行狀

志操最モ卓絶ト認ムル件

志操ヲ變セサルノ年數

生計ノ情況親族トノ關係及ヒ貧富ノ程度等

實業 精勵者

性質品行及平素ノ行狀

實業ニ從事ノ實況

衆民ノ模範タルヘキト認ムル事蹟

公益ヲ興セシ者

性質品行及平素ノ志行

事業經營ニ關スル功程及其實績並ニ將來維持ノ方法

費金ノ額本人ノ出金又ハ寄付金等ノ詳ヲ記スヘシ

學校病院等ヲ建設セシモノハ其構造並ニ建坪其他教員生徒又ハ醫員患者等ノ員數

道路河渠堤防橋梁ノ修築ニ係ルモノハ其工事ノ模様着手及竣工ノ年月施行前

後實地ノ景况其他延里程幅員詳細繪圖面及設計書等

他ニ公益事業ニ係ルモノアレハ其成績ヲ附記スヘシ



公同事務勤勉者

性質品行及ヒ平素ノ行爲

德望

明治三十一年訓令第四十五號ニテ本項删除

勞効顯著ト認ムル事項

公同ノ事務ニ従事セル年數

市町村長等ノ職ニ在ル者ハ左ノ事項取調ヲ要ス

報酬ノ有無

市町村内ノ折合

事務ノ整否

基本財産等ノ増殖維持ニ係ル件

右之外ト雖モ緊要ノ事項ハ記載ヲ要ス

訓令第三十號 (明治三十一年四月二日)

郡

今回本縣訓令第二十九號ヲ以テ褒章條例該當者具狀要件及訓令候處右市町村長於テ具狀スルノ外尙平素又ハ巡回ノ際等特ニ注意シ若シ具狀スヘキモノアラハ事實精査ノ上速ニ右訓令ノ要件ヲ具シ直ニ上申スヘシ

全警 分察 署

褒章條例該當者具狀要件ニ付今回本縣訓令第二十九號ヲ以テ郡市町村へ及訓令候處

其署ニ於テモ自今右訓令ニ照準具申スヘシ

位 勳

甲第十五號 (明治十二年一月廿九日)

叙勳者履歷届出心得別紙ノ通配付相成候條此段布達候事

(別紙)

叙勳者履歷届出心得

第一條 新ニ勳等ニ叙セラレタル者ハ第二條離形ニ照準シ履歷書相認メ 用紙美 濃紙 二週

間以内 往復日數 ナ除クニ之ヲ賞勳局ニ届出ヘシ

但從前勳等ニ叙セラレタルモノハ此心得書承了ノ日ヨリ本文同様ノ日數内ニ届

出ヘシ

第二條 履歷書離形

本貫族籍 元貫族 元族籍

苗 字 名

年號月日某國郡村町ニ於テ生

年號月日

一 任某官 或ハ某職 被仰付候事 申付候事

但達全文ヲ書載スヘシ



同上  
 一 免本官 或ハ某職被差免候事  
但同上  
 同上  
 一 叙某位  
但同上  
 同上  
 一 内外御用出張 復命ノ時モ書載スヘシ  
但同上  
 同上  
 一 賞典  
但同上  
 同上  
 一 責罰  
但同上  
 第三條 勳等ニ叙セラレタルモノハ第二條履歷書ノ廉届濟ノ後左ノ事項有之候節賞  
 勳局ニ届出ヘシ用紙美濃紙  
但届出期限ハ第一條ノ例ニ同シ

一 現ニ官位アル者ハ轉免黜陟等有之節  
但達全文ヲ書載シ届ケ出ヘシ  
 一 非職ノ者新ニ任官叙位ノ命ヲ拜シタル節  
但同上  
 一 内外御用出張ノ命ヲ受ケタル節及復命ノ節  
但同上  
 一 賞典及ヒ責罰ヲ受ケタル節  
但同上  
 一 外國旅行ハ公私ヲ不論發航及ヒ返朝ノ節  
本貫族籍等轉換ノ節  
 一 苗字名變改ノ節  
住所轉換ノ節  
 一 但叙勳ノ節ノ現住所ハ第二條履歷ト共ニ届ケ出ヘシ  
 一 死亡ノ節  
但遺族又ハ親戚ヨリ其管轄廳ヲ經テ届出ヘシ  
 明治十一年十一月 大政官賞勳局  
 乙第二百六十六號 (明治十二年八月廿八日) 各郡町村  
 勳位及從軍記章拜授ノ者ニシテ國事犯罪若シクハ破廉耻甚ニ係ル罪ヲ犯シ處刑ヲ受



クルモノアルトキハ舊惡減免贖罪收贖等ニ拘ラス「戸長」ヨリ其宜告書寫相添郡役所  
 ナ經テ當廳へ可届出  
 内三訓工號（明治廿七年一月廿日）  
 官國幣社禰宜主典判任待遇ノ者在職十ヶ年以上勤勞アルモノハ特ニ叙位セラルヘキ  
 義モ可有之ニ依リ將來相當ノ者ハ本人履歷書相添内申スヘシ

大山祇神社宮司宛

恤 救

甲達第八十六號（明治廿七年七月九日）

郡 役 所  
 戸長 役所

十九年達甲第二十  
 二號二十五號訓令  
 第三十九號ヲ以テ  
 廢止

明治七年第六十二號公達濟貧恤窮規則ニ係ル救助施行順序ニ付客年訓第十五號ヲ  
 以テ訓令ニ及ヒタル次第モ有之就テハ自今親戚隣保及其町村ニ於テ協救ノ力ヲ盡シ  
 猶官救ヲ仰カサルヲ得サルモノアリテ出願致候節ハ戸長ニ於テ左ノ事項ニ依リ精覈  
 取調具狀シ郡長ニ於テハ猶其實況ヲ審査シ意見ヲ附シ送達スヘシ  
 但明治十九年達甲第二十二號達ヲ除ク外本文ニ關スル從前ノ達ハ渾テ廢止ス  
 身 元 調 書

廢(篤)疾(老衰)幼弱

郡町村族籍職業

姓

名

年 齡

(一家數人ニ涉ルモノハ此次ニ列記ス)

- 一 職業ヲ營ムト能ハサル實況
  - 一 住家及從來生計ノ狀況
  - 一 動不動産所有ノ有無地所建物船舶並公債証券株券ノ類
  - 一 親戚身寄者ノ住所姓名及其續柄
  - 一 親戚身寄者貧富ノ實況
  - 一 親戚隣保及町村協救ノ米穀金員及其人名等  
 但人名書ハ別紙ニスルモ妨ケナシ
  - 一 親戚隣保及町村ノ協救起止ノ年月日
  - 一 親戚隣保及町村協救ノ力及ハサル事由  
 右ノ外戸籍面并ニ癡篤疾老衰者ニ係ルルハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ
- 告示第八十三號（明治二十五年三月十日）
- 窮民救助費棄兒養育費本年七月以降支給方左之通之ヲ定ム
- 一 救助費養育費共年額ノモノハ三ヶ月分ツ、取束初月一月四月ニ於テ前月ノ下米平  
 均相場ヲ以テ支給ス
  - 一 救助費日額ノモノハ每一ヶ月分其初メニ於テ前月ノ下米平均相場ヲ以テ支給ス

二十五年告示第百  
 十五號ヲ以テ第一  
 項中「前々月」ヲ  
 「前月」ト改ム  
 二十五年告示第百  
 十五號ヲ以テ第二  
 項中「前々月」ヲ  
 「前月」ト改ム











二十二年訓第四六  
四號ヲ以テ第六條  
中「最寄」ヲ「寄港」  
ト改ム

第四條 寄港ノ趣意一時暴風雨ヲ避クルカ又ハ薪木食料ノ缺乏若クハ船体損所修繕等ノ爲メニシテ若シ食料品ノ買入或ハ人夫等ヲ要スルコトアルトキハ相當ノ補助ヲ與ヘ諸般不都合ナカラシムヘシ

但陸上宿泊ハ万不得止場合ノ外之ヲ謝絶スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ其謝意ヲ表スル爲メ彼ヨリ郡役所又ハ「戸長役場」ヘ訪問スルコトアルトキハ郡長又ハ戸長ハ其船艦ニ至リ相當ノ答禮ヲ爲スヘシ警察署ニ於テ訪問ヲ受ケタルトキハ署長モ亦全シ

第六條 士官以上ノ者散步若クハ買物等ノ爲メ上陸セントスルトキハ豫メ其寄港市街ニ限ルヘキ旨ヲ指示シ之ヲ差許スヘシ

但シ此場合ニ於テハ特ニ巡查ヲシテ相當ノ警護ヲ爲サシムヘシ

第七條 若シ前條ノ區域外ヲ散歩セントスルトキハ平穩寛和ニ之ヲ示諭スヘシ若シ之ヲ聞入サルトキハ速ニ其趣艦長ニ通報スヘシ

第八條 兵卒銃器ヲ携ヘ隊伍ヲ組ミ上陸スル儀ハ不相成ニ付若シ上陸セントスルトキハ其旨ヲ示シ之ヲ拒絶スヘシ尤モ銃器ヲ携帶セス隊伍ヲ組マス艦長ニ於テ相當ノ取締ヲ爲シ士官等附添ヒ上陸セントスルトキハ第六條ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ許スモ妨ケナシ

第九條 碇泊中陸地ニ於テ運動若クハ操練ヲ爲スハ不相成ニ付若シ之ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ示シ之ヲ拒絶スヘシ

第十條 港内ハ勿論港外ト雖モ陸地ヲ去ル三海里以内ノ場所ニ於テ發火操練ハ不相成ニ付若シ之ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ示シ速ニ差止ムヘシ

但發火セサル操練ハ此限ニアラス

第十一條 清國軍艦ハ修好條規ニ於テ風雨ノ難ヲ避クルノ外ハ不開港場及内地ノ河湖支港ヘ入進スルコトヲ得サルノ取極メアルヲ以テ海上避難等急場ノ外ハ一切寄港ヲ謝絶スヘシ

第十二條 條約外國ノ軍艦ト雖モ疑ハシキ廉無之時ハ此内規ニ準シ相當ノ取扱ヲナスヘシ

第十三條 前各條ニ依リ取扱タル頗末ハ郡長戸長「戸長」ハ郡長ヲ經テ及警察署長ハ速ニ縣知事ヘ申報スヘキハ勿論取扱上荷モ疑岐ニ涉ル件ハ電信若クハ急使ヲ以テ縣知事ノ指揮ヲ乞フヘシ

第十四條 一條訪問受持區域ヲ定ムル左ノ如シ

| 郡名  | 港名並沿海町村名  | 受持 |
|-----|-----------|----|
| 宇摩川 | 宇摩郡役所     |    |
| 新居西 | 新居周布桑村郡役所 |    |
| 越智今 | 越智野間郡役所   |    |



|   |          |   |      |             |
|---|----------|---|------|-------------|
| 和 | 伊        | 西 | 北    | 各郡          |
| 氣 | 豫        | 字 | 字    | 上浮穴郡<br>ヲ除ク |
| 三 | 郡        | 和 | 和    | 沿海各町村       |
| 津 | 中        | 八 | 字    |             |
| 濱 |          | 幡 | 和    |             |
| 三 | 下浮穴伊豫郡役所 | 濱 | 嶋    |             |
| 津 |          | 西 | 南    |             |
| 警 |          | 字 | 宇    |             |
| 察 |          | 和 | 和    |             |
| 署 |          | 郡 | 北    |             |
|   |          | 役 | 宇    |             |
|   |          | 所 | 和    |             |
|   |          |   | 郡    |             |
|   |          |   | 役    |             |
|   |          |   | 所    |             |
|   |          |   | 轄    |             |
|   |          |   | 「戸長」 |             |
|   |          |   | 役場   |             |

附則

第一條 軍艦ニアラサル條約國ノ船舶寄港ノ節ハ左ノ件々ヲ尋問シ内規第一條ニ準シ特ニ縣知事ニ申報スヘシ尤其乗組員上陸セントスルトキハ事情不得止場合ノ外一切之ヲ拒絶スヘシ

一 國名艦號

一 寄港ノ事由並ニ碇泊ヲ爲スヘキ時間

第二條 前條ノ船舶ニシテ若シ内規第四條ノ要件ヲ缺キ又ハ乘艦ヲ拒ミ答辨ヲ爲サ、ルトキハ速ニ退去ヲ命スヘシ

但寄港免狀ヲ所持スルモノハ第四條ノ要件ヲ缺クト雖モ退去ヲ命スルノ限ニアラス

(參考)

譯

貴人ヨ

次ニ掲グル問ニ對シ答ヲ記入セラレヨ

貴船ノ稱號如何

何地ヨリ何用アリテ來リタルヤ

何時何地ニ向テ出發スルヤ

Gentlemen,  
Be so kind as to write answers down on the following questions:—  
The name of your ship?  
Where from and what for?  
When and where for to start?

内訓第一二號 (明治廿五年六月廿三日)

外國軍艦寄港ノ節取扱方ノ義ニ付テハ廿二年九月廿六日訓第四二七號ヲ以テ及訓令  
置候處自然其取扱方粗漏又ハ緩漫ニ涉ラサル様自今一層注意セラルヘシ

郡長宛

本邦軍艦寄港ノ節訪問方ノ儀ハ是迄別段内規等無之處禮節ヲ以テ之ヲ遇シ厚意ヲ以



テ之レニ對スルハ固ヨリ論ヲ俟タサル儀ニ付自今右軍艦寄港ノ節ハ郡長郡長不在ノ節ハ主坐郡書記之レヲ訪問シ若シ軍艦ニ於テ要求スル所アル時ハ可成是レニ便利ヲ與ヘ又質問スル等ノ事アル時ハ懇篤是レヲ説明シ疎意ノ感ナカラシムル様注意セラルヘシ

但訪問ノ際ハ該軍艦碇泊日數ヲモ問合セ若一兩日間モ碇泊スル場合ハ海軍々備如何等之レヲ人民ニ知ラシムル爲メ艦内縦覺ノ儀ヲ該艦長ニ照會シ其承諾ヲ得タル時ハ町村吏員町村會議員又ハ赤十字社員其他重立タル者ヲシテ縦覽セシメラルヘシ最モ縦覽ノ節ハ必ス不敬ノ舉動等無之様嚴重注意セラルヘシ

宇摩郡 新居周布桑村郡  
越智野間郡 西宇和郡  
南宇和北宇和郡長宛

訓第一五〇號 (明治二十六年四月廿四日)

沿海町村役場

今般神戸税關長ヨリ取締上ニ關シ照會ノ次第有之外國船ニシテ風波其他困難ノ場合又ハ薪水欠乏等ノ爲メ寄航ノ節ハ該艦長又ハ副船司ニ別紙告知書ヲ示シタル上同書第三項ノ申告書ヲ徴シ直ニ同關長ヘ差出スヘシ

NOTICE,

to mariners putting into a nonopened port in distress.

Foreign ships or vessels are only permitted to enter non-opened ports or harbors when compelled to do so from stress of weather, or for a supply of fuel or provisions.

All ships or vessels so compelled to enter shall be placed under the supervision of the Japanese Authorities.

The master, or commanding officer, of a foreign ship or vessel entering a non-opened port or harbor shall fill up the blank on the opposite page with the required information whenever it shall be presented by the Japanese Authorities and sign his name to the same.

Any foreign ship smuggling or attempting to smuggle goods at any of the non opened ports or harbours shall have all such goods forfeited to the Japanese Government, and the ship shall pay a fine of one thousand dollars for each offence of this kind, as provided for in the Trade Regulations.

In case a ship in distress is compelled to sell any spars, rigging or equipage, sea damaged cargo or ship's dunnage that may be subject to customs duty, duty shall be paid at the Custom House at an open port before the delivery of the goods, or the amount of duty may be deposited with the officer or officers despatched from the Custom House, and the prescribed formality may be performed subsequently at the Custom House.







訓令第四十三號 (明治三十二年八月二十六日)

郡市町村

日獨領事職務條約第三條ニ依リ免除スヘキ課税ハ好意ヲ以テ廣ク一般ノ外國領事官并ニ領事廳附屬ノ外國官吏ニ對シテモ之ヲ免除スル義ト心得ヘシ

内一訓第三二六號 (明治三十三年九月二十四日)

郡市警察署

瑞西國ニ於ケル帝國領事ニハ瑞西國カ國際慣例ハ勿論領事職務條約ニ據リテ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨在本邦瑞西國總領事館事務取扱獨逸國總領事ヨリ申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル瑞西國領事ニモ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ認メ候旨其筋ヨリ通知有之候條此旨心得ヘシ

取締

官訓第三〇四號 (明治三十三年九月八日)

郡警察署

外國兵員武器ヲ帶ヒ上陸スルコトヲ要請スルモノアルトキハ其目的操練若クハ遠足等何等ノ名義ニ於テスルヲ問ハス之ヲ許可スヘカラサル旨外務内務陸軍海軍各大臣連署ヲ以テ訓令有之候條取締方注意スヘシ但准士官以上ノ諸官ニシテ其服制ニ依リ武器ヲ帶フルモノ若ハ葬儀執行ノ爲ニスル儀仗兵等ハ其兵數目的ニ對シ相當ト認ムルトキハ此限ニアラス

第二十類 雜載

氣象

告第一號 (明治二十二年一月十二日)

明治十九年七月勅令第五十一號ヲ以テ本年一月一日ヨリ全國一般ノ標準時ヲ用ヒラレ候ニ付テハ右標準時タル所ノ東經百三十五度即本邦中央(丹波ノ西部播磨ノ東部ニ當ル)ノ地下縣下經度ノ確定セル地ニ付左ニ其標準時ト地方時(即從前ノ正午)トノ差違ヲ示ス

| 地名      | 經度         | 東經度百三十五度ノ標準時ト地方時トノ差ナリ故ニ此差ヲ進メテ以標準時ト一致ヲナスニ至ル |
|---------|------------|--|
| 溫泉郡松山   | 西經 七度〇二分   | 九分   |
| 西宇和郡野浦  | 全 七度四十五分   | 十五分  |
| 北宇和郡宇和島 | 東經 百廿二度廿六分 | 八分一秒                                       |

告示第九十九號 (明治二十二年十二月十九日)

本縣松山測候所ヲ溫泉郡道後村大字持田ニ設置シ來ル明治二十三年一月一日ヨリ觀測ヲ實施ス

松山測候所規程

明治二十三年二月七日

松山測候所

第一條 測候所ハ氣象觀測ノ事務ヲ掌ル

香川縣ニ屬スルモノハ除ク



- 第二條 測候所ニ所長一名所員若干ヲ置ク
- 第三條 測候所ノ事務ヲ分テ左ノ二項トス
  - 一 氣象觀測ノ事
  - 一 報告統計ノ事
- 第四條 所長ハ所員ノ分掌ヲ指示シ其勤惰ヲ監督スヘシ
- 第五條 左ノ事項ハ所長之ヲ處分スルコトヲ得其他ノ事件ハ「農商課」長ニ協議シ知事又ハ「第一部」長ノ指揮決裁ヲ承ケ其事務ヲ處理スヘシ
  - 一 氣象觀測ニ關シ中央氣象臺各府縣測候所及ヒ縣下郡市役所又ハ町村役場ト文書往復ノ事
  - 一 中央氣象臺ヘ報告ノ事
  - 一 警報傳達ノ事
  - 一 天氣豫報ノ事
  - 一 警報ニ係ル臨時人夫雇使ノ事
- 第六條 所長不在ノ時ハ首席ノモノ代理スルコトヲ得
- 第七條 直員ハ二名ト定メ輪番勤務スヘシ
- 第八條 直員ハ中央氣象臺ノ警報有無ニ關セス晴雨計沈降一時間ニ二佛厘以上ニ達シ非常ノ兆候ト認ムルトキハ臨時觀測及電報ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 直員ハ其翌日休暇スルト雖トモ事務ノ都合ニ據リ執務スヘシ

明治二十九年訓令  
第二十二號ニテ但  
書追加

第十條 器械備品及ヒ消耗品ハ之カ帳簿ヲ製シ其出納ヲ明瞭ニスヘシ  
訓令第十號 (明治二十四年二月十九日)  
郡役所(溫泉郡ヲ除ク)  
三津警察署

郡役所構内へ寒暖計及雨量計設置候條別紙報告心得書ニ據リ松山測候所へ報告スヘシ

報告心得書

- 但三津警察署ニ於テハ大氣ノ溫度及降雨降雪水量ノ外ハ報告ヲ要セス
  - 一 觀測時ハ午前十時ニ於テ毎日一回ツ、トス
  - 一 寒暖計ハ大氣ノ溫度ヲ測ルニ用ユ其度目ハ攝氏トス
  - 一 雨量計ハ降雨降雪ノ水量ヲ測ル器ニシテ其度目ハ佛厘(ミリメートル)トス
  - 一 風ノ方向ハ草木ノ枝葉或ハ煙筒ヨリ噴出スル煙ノ如キ輕体ノ流動如何ニ注目シテ觀測スヘシ而シテ其方向ハ北、北東、東、東南、南、南西、西、西北ノ八方位ニ分チテ觀測スヘシ
  - 一 風力ハ零ヨリ六迄ノ七個ニ分チテ之ヲ觀測スヘシ而シテ之ヲ別ツノ法ハ左ニ示ス處ノ區別ニ據リテ了解スヘシ
- 但風力ヲ計ルハ強キニ過キサル様注意スヘシ

| 記號 | 名稱 | 說明                      |
|----|----|-------------------------|
| 0  | 無風 | 煙全ク直昇シ或ハ殆ント直上シ又樹葉動カサルモノ |



明治二十九年訓令第三十三號ヲ以テ六項以下更正

|   |    |                    |
|---|----|--------------------|
| 1 | 軟風 | 人ナシテ風アルノ感覺ヲ起サシムルモノ |
| 2 | 和風 | 樹葉ヲ動カスモノ           |
| 3 | 疾風 | 小枝ヲ動カスモノ           |
| 4 | 強風 | 勁枝ヲ動カスモノ           |
| 5 | 暴風 | 大樹ノ幹ヲ動カスモノ         |
| 6 | 颶風 | 樹ヲ拔キ屋ヲ發クモノ         |

一 大氣上層ノ風ハ概テ下層ノ風ト異ナルカ故ニ雲行ノ方向并ニ其速度ヲ觀測スヘシ最モ緊要ナルヲ以テ上中下ノ三雲ニ區別シテ觀測スヘシ尤モ三雲共ニ現ハルトキハ三雲共野帳ニ記入シ月報ヘハ上中兩雲ノ方向并ニ速度ヲ記入スヘシ

一 雲ノ速度ハ緩疾急ノ三種ニ區別シテ之ヲ觀測シ且ツ報告ニ用ユルニハ左ノ記號ヲ以テ記入スルモノトス

明治三十年訓令第二十三號ニテ雲量ノ項更正

名稱記號

|     |   |   |     |   |   |     |   |   |
|-----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|
| 上層雲 | 疾 | 2 | 中層雲 | 疾 | 5 | 下層雲 | 疾 | 8 |
|     | 緩 | 1 |     | 緩 | 4 |     | 緩 | 7 |
|     | 急 | 3 |     | 急 | 6 |     | 急 | 9 |

一 雲量即チ雲ノ多少ハ滿天一点ノ雲ナキトキヲ零トシテ滿天雲ヲ布クトキヲ十トシ零ヨリ十三至ル數字ヲ以テ之ヲ示スヘシ但天氣ハ雨雪霰雹ノ降ル時ノ外ハ雲量

二 以下ヲ快晴三ヨリ七マテヲ晴八以上ヲ曇ト記スヘシ

一 雲形ノ階級ニ於テハ雲ノ形狀及ヒ高サニ依リテ種類ヲ分チ甲種ヲ線狀又ハ塊狀トシ乙種ヲ帶狀又ハ幕狀トス而シテ高サニ就テハ第一類ヲ上雲第二類ヲ中雲第三類ヲ下雲第四類ヲ昇雲第五類ヲ高霧トス

一 右各項ニ對スル名稱ヲ細別スレハ左ノ如シ

|     |    |     |    |    |
|-----|----|-----|----|----|
| 第一類 | 上雲 | 卷雲  | CS | C  |
| 第二類 | 中雲 | 卷層雲 | CS | CK |
|     |    | 卷積雲 | CK | CK |
| 第三類 | 下雲 | 層積雲 | SC | SK |
|     |    | 亂雲  | N  | SK |
| 第四類 | 昇雲 | 積雲  | N  | K  |
|     |    | 積亂雲 | KN | K  |
| 第五類 | 高霧 |     | KN | K  |



層雲

S

一 各雲形狀ニ就テ主要ナルモノヲ記スレハ左ノ如シ

卷雲 白ク薄キ雲ニシテ其形或ハ羽毛ノ如ク或ハ刷子ノ如ク或ハ絲ノ如ク時トシテ全ク孤立シ時トシテ長キ帶狀ヲ爲シ而シテ天ノ一方ヨリ他ノ一方ニ亘ルコトアリ平行シタル帶狀ノモノ同時ニ多ク現ハル、トキハ天ノ一点ニ起リテ發散シ又他ノ一方ニ聚合スルカ如キ觀ヲ呈スルコトアリ

卷層雲 白ク薄キ雲ニシテ其形或ハ幕ノ如ク或ハ絲ヲ亂シタルカ如ク時トシテハ天ニ乳色ヲ呈シ時トシテハ日月ノ周圍ニ暈ヲ生ス

卷積雲 白キ絲狀ノ雲塊ニシテ屢列ヲ爲シ又團合ヲ爲スモ陰ヲ生セス

積卷雲 白色又ハ灰色ノ雲塊ニシテ時トシテハ列ヲナシ時トシテ相接シテ其境界ヲ認メ得サルカ如シ此雲ノ卷積雲ト最モ識別シ易キハ陰ヲ有スルニアリ

層卷雲 灰色或ハ乳色ニシテ時トシテハ淡青色ヲ帶ヒタル濃厚ノ幕狀ヲ爲スト雖モ卷層雲ノ如ク絲狀ヲ呈スルコト日月ノ周圍ニ有色ノ輪ヲ現ハスコトナク日月ノ近隣ニ在テハ唯明キ部分ヲ呈スルコトアルノミ

層積雲 暗黒巨大ナル雲塊ノ團合シタルモノニシテ屢々波雲ヲ呈シ(冬季ニ多シトス)時トシテ層薄クシテ雲間ヨリ蒼天ヲ望ムコトアリ

亂雲 暗黒ナル密雲ニシテ判然タル形ナク其縁邊ハ破裂シタルカ如ク雨又ハ雪ヲ連降スルコト多シ密雲ノ畝間ヨリ概子層卷雲ヲ望ムコト多シトス是亂雲ト層積雲トヲ識別スルニ最モ緊要ノ事實トス

積雲

濃厚ナル團雲ニシテ湧出ノ狀ヲ示シ其上部ハ無數ノ凸面ヲ有シ下部ハ概子水平ナリ而シテ此雲ハ絶ヘス昇騰シツ、アルモノナレハ其形狀急ニ變スルコトアリ日光正面ヨリ映スレハ其内部明ク其裏面ヨリ來タルトキハ内部暗黒ニシテ縁邊明キヲ見ル

積亂雲

濃厚ナル團雲ニシテ其形或ハ山ノ如ク或ハ塔ノ如シ其上部ハ幕狀又ハ帶狀ヲ呈シ下部ハ亂雲類似ノ灰色ナル密雲ヲ併フモノナリ此雲ノ特性ハ雷豪雨霰雹ヲ起シ降雨時間ハ極メテ短キヲ常トス

層雲 層雲ハ高霧ニシテ灰色不定形トナル低キ雲ナリ此雲ハ地面ニ接セサル所ヲ以テ霧ト識別ス

一 數種ノ雲形全時ニ現ハル、トキハ其最モ多量ナルモノヲ第一ニ記シ順テ逐フテ其最モ少量ナルモノヲ最後ニ記スヘシ

一 雨雪ノ量ハ前日午前十時ヨリ當日午前十時迄ノ量ヲ前日ノ欄内ニ記入スヘシ

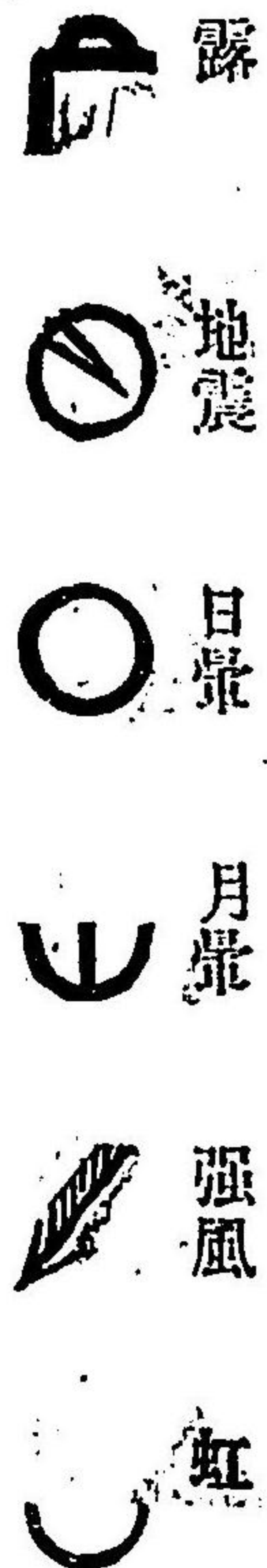
一 雨雪其他空氣間ニ現ハル、諸現象等ハ總テ左ニ示ス處ノ萬國普通ノ記號ヲ以テ記事欄内ニ記載スヘシ但霜露日暈月暈ヲ除クノ外ハ總テ夜半ヲ界トシテ始終ノ時間ヲ記シ且電雷電聲電光地震等ハ其方向ヲモ記入スヘシ

諸現象記號

- 雨 
- 雪 
- 電雷 
- 雷聲 
- 電光 
- 雹 
- 霰 
- 霧 
- 霜 

明治三十年訓令第  
二十三號ニテ雨雪  
ノ項更正





一 氣象報告ハ左ノ二種ニ區別ス

定期報告

臨時報告

一 定期報告ノ種類

氣象月報 毎月一回

同年報 毎年一回

動物報告 同

植物報告 同

一 臨時報告ノ種類

雷雨報告

地震報告

暴風雨報告

積雪報告

流星報告其他著シキ現象

明治三十年訓令第  
二十三號ニテ積雪  
報告ノ四字追加

一 報告書式

第一號

月報雛形

第二號

年報雛形

第三號

動物報告雛形

第四號

植物報告雛形

第五號

雷雨報告雛形

第六號

地震報告雛形

第七號

暴風雨報告雛形

第八號

積雪報告雛形

報告書式ハ測候所ヨリ通報ス

一月報ハ翌月三日年報及動物植物報告ハ翌年一月十五日限り其他ハ現象ノ終リタル時ヨリ二十四時間内ニ發送ス可シ

告示第五十四號 (明治二十六年四月二十九日)

本縣松山測候所構内ニ天氣豫報柱ヲ設立シ左ノ標式ニ據リ本年五月一日ヨリ地方天氣豫報ヲ揭示ス

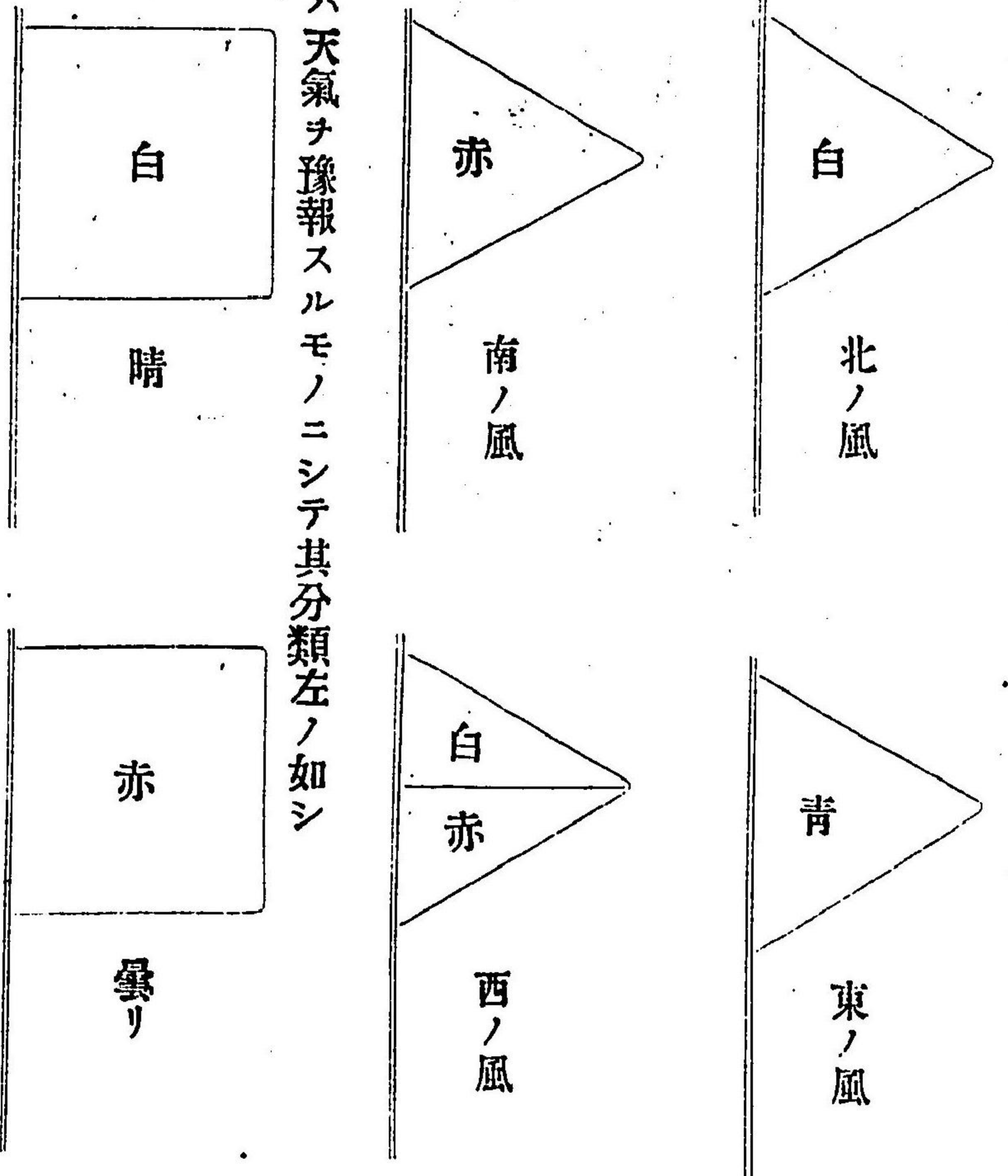
一 地方天氣豫報ノ信號ハ三角旗方旗及長旒ノ三類トス

一 三角旗ハ風向ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ

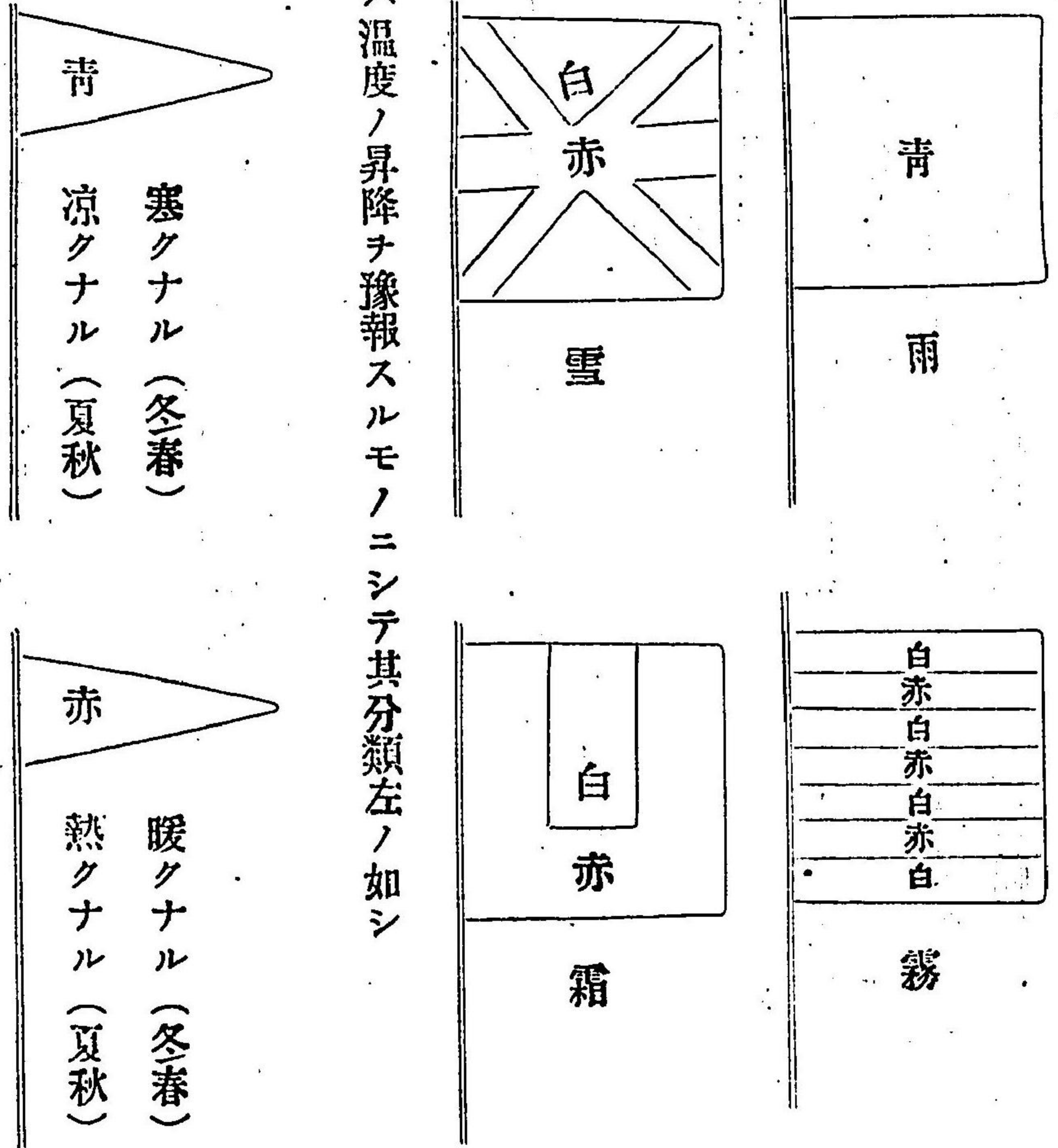
明治三十年訓令第  
二十三號ニテ第八  
號追加



一 方旗ハ天氣ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ



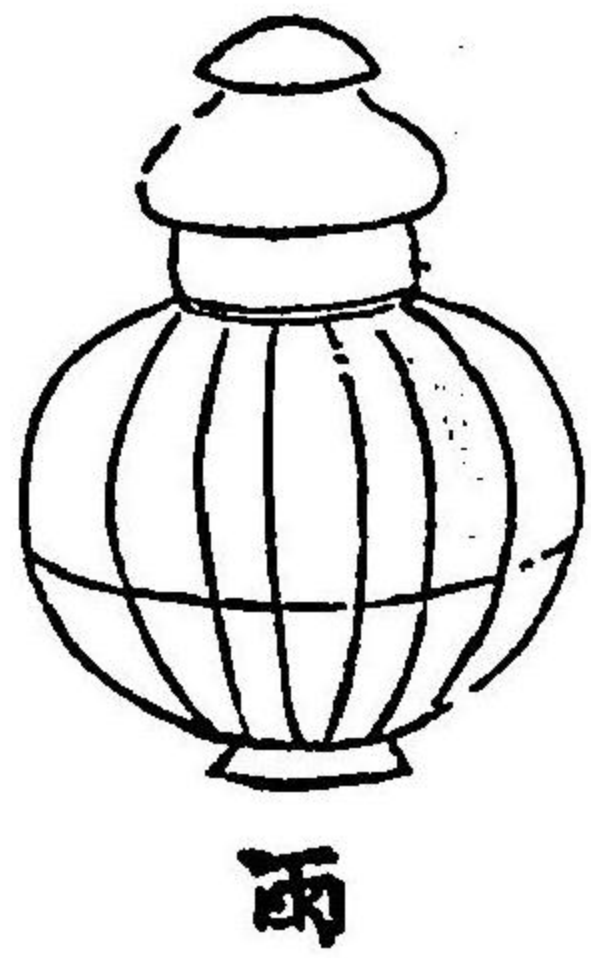
一 長旒ハ溫度ノ昇降ヲ豫報スルモノニシテ其分類左ノ如シ





一 青燈ハ降雨ヲ豫報スル爲メ夜間特ニ之ヲ掲揚ス

青燈



兩

訓令第六十八號 (明治三十一年十二月九日)

周 桑 郡

其郡役所構内へ寒暖計及雨量計設置候條明治二十四年二月愛媛縣訓令第十號氣象觀測報告心得書ニ據リ來ル明治三十二年一年一日ヨリ松山測候所へ報告スヘシ

祝 節

無號 (明治十一年二月十二日)

各 課 雇

自今新年及ヒ紀元天長節拜賀ヲ始メ諸御祭日遙拜トモ不及出廳

訓第一〇〇號 (明治廿一年六月五日)

郡 役 所  
「戸長役場」

天長節紀元節ハ國家ノ大祝日ニシテ臣民一般ニ之ヲ慶祝スヘキハ勿論ノ義ニ付右兩節ニハ自今公立學校ハ勿論其他ノ學校ニ於テモ各其校ニ職員生徒ヲ集メ祝賀式ヲ舉行候様取計フヘシ

二十四年訓令第九號ヲ以テ「公立」小學校及「私立」小學校ノ外ニ「其他ノ小學校」ノ各「小」ノ字ヲ削リ但書中「經テ」ノ下及以下六字追加二十五訓令第十號ニ依リ但書中五號ニ關スル應消滅三十一訓令第七十五號ヲ以但書削除

訓令第九十二號 (明治二十三年十月廿九日)

郡 市 町 村  
公 私 立 學 校

天長節紀元節新年等ノ祝賀式ハ自今左ノ準備及方法ニ依リ執行スヘシ

- 一 式場ハ講堂又ハ庭園等便宜ナル場所ニシテ可成全校生徒ヲ整列セシメ得ル面積アルヲ要ス
- 一 式場ハ正面ニ玉座ヲ設ケ 御眞影ヲ奉安シ又ハ便宜虛位ヲ設ケ清淨ニシテ尊嚴ナルヲ要ス
- 一 式場ニ生徒ヲ整列セシムルニハ最下學年生ヲ前列トシ學年ヲ逐テ後方ニ排列セシムヘシ
- 一 學校長又ハ首席教員ヲ前列右方ノ三步前ニ位置シ其他ノ職員ハ生徒列ノ兩側ニ位置スヘシ
- 一 學校長又ハ首席教員ハ職員及生徒ノ整列シタルトキ先職員ヲシテ順次敬拜セシメ而シテ生徒一同ニ敬拜セシムヘシ
- 一 但便宜ニ依リ分列式ヲ行ヒ又ハ生徒ヲ數組ニ分チ敬拜セシムルモ妨ケナシ
- 一 敬拜ノ前後ハ可成奏樂歌謠セシムヘシ
- 一 敬拜ノ前後便宜ナル時間ニ於テ學校長教員ハ左項ノ說話ヲナシ且生徒ヲシテ唱歌セシムヘシ
- 一 但唱歌ヲ科セサル學校ニ於テハ說話ノミニ止ムルモ妨ケナシ
- 一 天長節ニ於テハ 今上陛下ノ御功德ニ關スル事項ヲ說話シ且適當ナル唱歌ヲ奏



二十五年訓令第十  
五號ニ依リ第八項  
消滅

セシム  
紀元節ニ於テハ 神武天皇ノ御偉蹟ニ關スル事項ヲ說話シ且適當ナル唱歌ヲ奏  
セシム

新年ニ於テハ 而陛下ノ聖壽萬歳ヲ祝シ併セテ皇室ノ尊榮ヲ頌揚シ及歷代天皇  
ノ御功德ニ關スル說話ヲナシ且適當ナル頌歌ヲ奏セシム

(一)

訓令第二百二號 (明治二十三年十二月十九日)

學校職員

廳下在任ノ學校職員各學校ニ於テ新年紀元節天長節祝賀式執行ニ付差支アルモノハ  
自今本廳へ參賀ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

官第六三號 (明治二十四年十一月二日)

警察部 監獄署

今般巡查看守判任官待遇ト被定候ニ付テハ三大節拜賀トシテ參應セシムヘシ  
但巡查ハ各警察署分署看守ハ各監獄支署在勤ノ向ハ賀表差出サシムヘシ

### 民事及戶籍

乾第四十號 (明治七年四月十八日)

僧侶族籍ノ儀ハ當初父母ノ家ヲ出テ縮流ニ從事シ桑門ニ遊フ所謂出家是ナリ今日族  
籍ヲ定ル時ハ直ニ出タル家ニ歸籍スルヲ至當トス然リト雖モ各自都合ニ依リ別ニ望  
ノ地ニ入籍シ又ハ親族等へ加籍スルモ妨ナシトス然ルニ目今住職セル寺院ヲ以テ私

宅トシ届出候向モ有之專擅ノ至以ノ外ノ事ニ候右様ノ儀斷然不相成候且又其他什具  
等ノ處分ニ至ル迄心得違於有之ハ依科屹度裁判可申付候條此段管内寺院へ布達候事  
甲第九十八號 (明治十四年十月八日)

明治十三年第三號ヲ以テ華士族當主死亡後相續人選定期日之儀公布相成候處華士族  
犯罪有之除族ノ刑ニ處セラレタル者刑名宣告後六ヶ月ヲ經過シ相續人ヲ届出サルト  
キハ是亦右公布ニ準シ其族稱廢絶候儀ト可相心得

乙第六十六號 (明治十六年五月九日)

監獄署 郡町村

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハス本人放還之時籍ヲ望ノ地ニ定  
メシメ典獄ヨリ就籍地ノ「戸長」へ通知書ヲ作り本人ヲシテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハシ  
ムヘシ

(但)

乙第六十五號 (明治十七年四月廿九日)

郡町村

本縣在籍ノ者ニシテ警視廳へ巡查志願之者本人ニ關スル身分證書へ奧印ヲ要スル者  
有之節ハ事實調査ノ上左ノ書式ニ照依シ奧印可致

身分證明書

氏

名

原籍

縣何郡市何町村番地又ハ何某方同居

身分

華士族又ハ平民戸主或ハ何某何男兄弟

生年月日

年 月 日 生

十四年甲第二百三  
十六號ヲ以テ一處  
セラレタル者ノ  
下「刑名」以下二  
十三字準シ「ノ」下  
「其」以下五字削除  
十七年七月七日宮  
内省達華族令ニヨ  
リ華族ノ取消滅

十九年内務省令第  
八號ニ依リ但書消  
滅

二十四年訓令第百  
十二號ヲ以テ身元  
證明書改正



家資分産又ハ身代限リ  
 兵役  
 右證明候也

無但家資分産ノ宣告ヲ受ケタルモノハ復權ヲ得タルヤ否又ハ從前身代限リノ處分ヲ受ケタルモノハ義務ノ辨償ヲ終リタルヤ否ヲ記スヘシ  
 國民軍或ハ現役歸休豫備後備等但徵集猶豫延期免除等ニ係ル者ハ其理由ヲ記スヘシ

年 月 日

郡市町村長 氏 名 印

甲第三十八號 (明治十八年三月二十六日)

在籍寄留者ヲ問ハス借家住居ノ者ハ當初借受又ハ轉居ノ際共必ス其家主ト連印ノ上「戸長役場」へ届出スヘシ

達甲第十一號 (明治二十年二月一日) 郡 町 村

當縣在籍之者各府縣巡查志願ニ付本籍身分證書へ奥書請求ノ節ハ詳細取調ノ上左ノ書式ニ照依シ奥書ス可シ

本籍身分證書

愛媛縣何國何郡何町村何番地  
身分戸主或ハ何某幾男兄弟養子等

姓 名

何年何ヶ月

生年月日 年號 干何年何月何日生

兵役 有無若シ有之トキハ其兵籍ヲ詳記スヘシ

罰 科 有無若シ有之トキハ其罪名刑名等ヲ詳記スヘシ  
 身代限 有無若シ有之トキハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヤヲ記スヘシ

年 號 月 日

右 姓 名 實印

右之通相違無之候ニ付奥印候也

愛媛縣何郡長又ハ何郡何町村  
「戸長」

年 號 月 日

姓 名 印

縣令第七十三號 (明治二十年五月十四日)

一 郡内他町村へ寄留スルモノハ出入共其都度寄留地及本籍戸長へ届出ヘシ  
 戶籍取扱細則 明治二十年九月二十六日 達甲第九十九號 郡役所「戸長役場」

寄 留

第二十四條 出入寄留簿ハ一種毎ニ部門ヲ分チ編製スヘシ尙其一種中ニハ一世帶ヲ爲スモノト否ラサルモノトヲ區別スヘシ

第二十五條 寄留簿用紙ハ戶籍用紙ニ準據シ其記載方ハ明治十九年内務省訓令第二十號寄留簿登記書式ニ據ルヘシ

第二十六條 明治十九年内務省令第十九號第五條但書ニ係ル入寄留者ノ届書ハ其寄

戶籍法ニヨリ寄留ニ關スル他ノ條項ハ之ヲ省ク



留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ

但出生ニ於テハ別ニ入寄留届去ナサシムルニ及ハス

第二十七條 前條ニヨリ出寄留者ヨリ發送セル届書ハ出寄留届ニ登記シタル上更ニ

戶籍取扱手續第八條第十條第十五條等ノ手續ヲナスヘシ

但出生ニ於テハ別ニ出寄留届ヲナサシムルニ及ハス

第二十八條 同令第六條ノ出入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者

復歸届書並ニ明治二十年縣令第七十三號ニ係ル届書ハ各類ニ從テ編綴スヘシ

但郡役所ヘ送付スルニ及ハス

第二十九條 内國人ニシテ公使館領事館又ハ居留地外國人所有ノ家屋ニ寄留シタル

モノハ本人<sup>幼者ハ後見人又ハ親族</sup>ノ届出ノミヲ以テ其手續ヲ了シタルモノトシ同上寄留地ヲ去

リ本籍地ヘ復歸又ハ更ニ他ヘ寄留ノ届書ヲ本籍「戶長」ニ於テ受領シタルトキハ其

旨該「戶長」ヨリ前寄留地ノ「戶長」ヘ通報スヘシ

第三十條 大學校士官學校又ハ教導團ノ生徒隊ニ屬スル馬丁等ハ在屯營下士卒同様

其現在地ニ於テハ出入ノ調査ヲ要セス本籍地ニ於テハ傭入又ハ解傭ノ通知若クハ

届書ヲ受領シタルトキ戶籍取扱手續ニ由リ出寄留簿ヲ加除スヘシ

但戶籍表調製ノ節ハ之ヲ出寄留ニ算入スヘシ

第三十一條 巡查奉職中警察署又ハ分署等ヘ寄宿スルモノ、取扱方モ前條ノ例ニ準

スヘシ

(表紙原紙)

明治何年何月何日編製(改製)

他府縣之部

入 寄 留 簿

共ニ參册

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戶 長 役 場」

數町村ヲ管轄スル「戶籍役場」ハ一帳簿内一町村毎ニ見出紙ヲ附シ區別スルコ

ト登記目錄様式ニ同シ以下倣之

明治何年何月何日編製(改製)

他郡之部

入 寄 留 簿

共ニ參册

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戶 長 役 場」



明治何年何月何日編製(改製)  
他町村之部

入寄留簿

共ニ參册

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

明治何年何月何日編製(改製)

他府縣之部

出寄留簿

共ニ參册

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

明治何年何月何日編製(改製)

他郡之部

出寄留簿

共ニ參册

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

「戸長役場」

△印 割  
第何號△(本番號ハ登記目錄ノ番號ヲ用ヒ役場印  
ヲ以テ登記目錄ト割印スヘシ以下同シ)

全戸ノ送籍狀書式

「△印ハ朱書」

何縣何郡何町村何番戸

士族(平民)

前戸主 亡父氏名

何年何月何日相續、何年何月何日願濟改  
名、何年何月何日願濟復姓

亡父名長男

舊姓號 氏 舊名

主 何年何月何日生



二十一年法律第一  
號二十二號ニヨリ官  
六十二號以下皆全  
シノ字消滅以下皆全

|                                  |   |                |   |
|----------------------------------|---|----------------|---|
| 何年何月何日何縣何郡何村平民氏名二女<br>入籍         | 母   | 已父名妻           | 名 |
| 何年何月何日何府何區何町士族氏名長女<br>入籍         | 妻   | 何年何月何日生        | 名 |
| 右全戸幾名御管内何町村何番戸(地)へ轉住之義申出候ニ付及送籍候也 |   |                |   |
| 年月日                              | 何縣何郡何町村戸長御中<br>(區ハ何府縣何區々長御中<br>ト記スヘシ以下同シ) | 何町村戸長氏名官<br>△印 |   |

第 號

人別ノ送籍狀書式

|  |                    |         |   |
|--|--------------------|---------|---|
| 何縣何郡何町村何番戸                                     | 士族(平民)             | 戸主氏名    | 名 |
| 何年何月何日何府何區何町士族氏名養子<br>(妻)離縁ニ付復歸                | 弟(妹)               | 亡父幾男女   | 名 |
| 右之者御管内何町村何番戸(地)士族(平民)氏名養子(妻ニ差遣シ候旨申<br>出ニ付及送籍候也 |                    | 何年何月何日生 | 名 |
| 年月日  | 何縣何郡何町村戸長氏名官<br>△印 |         |   |
| 何府縣何郡何町村戸長御中                                   |                    |         |   |



告示第七十號 (明治二十四年六月十日)

從前刑事ニ附帶スル私訴ニ付テハ告訴狀又ハ盜難屆等ノ紙尾ニ記載シ來リ候處以來私訴ヲ爲サント欲スル者ハ其被告人豫審又ハ公判ニ付セラレタルヨリ第二審ノ判決アル迄ニ私訴狀ヲ管轄裁判所ヘ差出スヘシ

訓第三八〇號 (明治廿四年十月十四日)

郡

民事訴訟法第六百四十三條ニ依リ不動産強制競賣ノ申立其他不動産差押假差押ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ其債權者ヨリ地所ニ付其納ム可キ一ケ年ノ地方公課地方稅市稅町村稅等ス可キ證明書ヲ求ムルトキハ町村長ニ於テ之カ證明書ヲ附與ス可キ義ト心得ヘク旨各町村長ニ訓付ヘシ

民事訴訟法第六百四十三條ニ依リ不動産強制競賣ノ申立其他不動産差押假差押ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ其債權者ヨリ地所ニ付其納ム可キ一ケ年ノ地方公課地方稅市稅町村稅等スヘキ證明書ヲ求ムルトキハ市長ニ於テ之カ證明書ヲ附與スヘキ義ト心得ヘシ  
訓第一五八號 (明治廿五年五月廿三日)

市 町 村

民事訴訟法第四百五條二項ニ依リ市町村長ニ預カリタル訴訟書類ニシテ其送達ヲ受クヘキモノ無之場合ニ於テ市町村役場ヨリ返還候向モ有之候哉ノ趣ニ候處右ニテハ法文ノ旨趣ニ相反シ候ニ付自今右様不都合無之様取扱フヘシ  
內三訓第二四二號 (明治二十九年三月十一日)

郡

今般内務省訓令第四號ヲ以テ寄留ニ關スル屆書取扱方訓令相成候ニ付テハ屆書ノ送附ヲ受ケタル町村長ハ出寄留入寄留又ハ退去ノ届出ヲ怠ルモノナキヤ否ニ注意シ時宜ニ依リテハ本人又ハ地主家主等ヲ喚問シ又ハ警察官ニ囑托シテ取調フル等整理ヲ目的トシテ嚴重施行候様輸達シ殊ニ從來届漏ノ分別紙參照ノ如ク數多有之ニ付此際嚴重取調ヲ爲サシメ可及的整理ヲ計ルヘシ  
(別紙畧ス)

郡市町村

訓令第二十六號 (明治廿九年六月二十日)

明治十九年九月内務省令第十九號ニ依ル寄留届寄留者復歸届取扱方左ノ通心得ヘシ  
一 入寄留ノ届出アルトキハ市長町村長ハ戶籍取扱手續第二十條ノ手續ヲ了シタル後寄留書ニ年月日登記濟ノ旨ヲ記入シ其職印ヲ押捺シ直ニ之ヲ寄留人本籍地ノ市町村長ニ送付スヘシ

一 出寄留ノ届出アリタルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十三條ノ手續ヲ了シタル後前項寄留地ヨリ發送ノ屆書到達スヘキ日數ヲ經タルモ猶到達セサルトキハ其出寄留届書ニ前項ノ如ク記入捺印シ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スヘシ  
一 寄留者本籍ニ歸リタル届出アルトキハ市町村長ハ戶籍取扱手續第二十四條ノ手續ヲ了シタル後其屆書ニ前項ノ如ク記入捺印シ直ニ之ヲ其元寄留地ノ市町村長ニ送達スヘシ

訓令第三十一號 (明治廿九年七月九日)

郡市町村

明治二十年五月愛媛縣令第七十三號ニ依ル寄留届書ハ本年六月愛媛縣訓令第二十六



號ニ準據シ取扱フヘシ

内三訓第二七一號 (明治二十九年七月十四日)

郡

轉寄留届取扱方ノ儀轉寄留者カ轉寄留地ヘ差出シタル届書ハ本年六月訓令第二十六號第一項ニ依リ本籍地ヘ送附スヘキハ勿論本籍地ヘ差出シタル届書ハ復歸ト更ニ出寄留ト兼タルモノナルヲ以テ同訓令第二項第三項ニ依リ可取扱筈ニ有之候條各町村ヘ示達シ本年六月十三日付内三訓第二四二號ノ主旨ニ依リ出入寄留共ニ届洩ナキ様取計フヘシ

内三訓第二七二號 (明治廿九年七月十四日)

松山市

轉寄留届取扱方ノ儀轉寄留者カ轉寄留地ヘ差出シタル届書ハ本年六月訓令第廿六號第一項ニ依リ本籍地ヘ送附スヘキハ勿論本籍地ヘ差出シタル届書ハ復歸ト更ニ出寄留ト兼タルモノナルヲ以テ同訓令第二項第三項ニ依リ可取扱要スルニ本年六月十三日付内三訓第二四二號ノ主旨ニ依リ出入寄留共ニ届洩ナキ様取計フヘシ

内三訓第二八〇號 (明治二十九年七月廿一日)

郡

本年六月愛媛縣訓令第二十六號ヲ以テ寄留届寄留者復歸届取扱方相定メ候處寄留者ノ出產並死亡ニ關スル届ノ如キモ該訓令ニ準據シ取扱フヘシ  
示達取計フヘシ  
右訓令ス

本年六月愛媛縣訓令第二十六號ヲ以テ寄留届寄留者復歸届取扱方相定メ候處寄留者ノ出產並死亡ニ關スル届ノ如キモ該訓令ニ準據シ取扱フヘシ

市町村 監獄署  
警察署

内三訓第二八二號 (明治二十九年七月廿三日)  
大阪市各區ニ對スル送籍寄留若クハ犯罪者ノ戶籍事項取調等ニ關シ大阪市役所宛ニテ申牒候向キ往々有之趣之處右等ノ事件ハ該市各區長ノ取扱ニ屬スルヲ以テ自今右様ノ向有之候ハ、當該區長ニ對シ直接往復候様取計フヘシ

郡

内三訓第三一六號 (明治廿九年八月廿二日)  
寄留者ニシテ其寄留地ニ差出シタル本籍移轉届ハ名簿訂正ノ手續ヲ了シタル後本年六月愛媛縣訓令第二十六號ニ準據シ其届書ヲ轉籍地市町村長ニ送附致スヘキ筈ニ有之候條其旨各町村ヘ示達執計フヘシ

各 郡

内三訓第三五八號 (明治廿九年九月廿一日)  
明治二十九年六月愛媛縣訓令第二十六號ヲ以テ寄留届寄留者復歸届取扱方相定メ候處寄留者ニ關スル失踪届ノ如キモ該訓令ニ準據シ可取扱筈ニ有之而シテ同年七月内三訓第二八〇號訓令寄留者ノ出產并死亡届ヲ右訓令第二十六號ニ依リ本籍地ヨリ寄留地ヘ送付スル場合ニ限リ其謄本ヲ送附シ若クハ其通知ヲ爲サシムル等便宜取扱ヘキ旨各町村役場ヘ示達取計フヘシ

松山市

明治二十九年六月愛媛縣訓令第廿六號ヲ以テ寄留届寄留者復歸届取扱方相定メ候處



寄留者ニ關スル失踪届ノ如キモ該訓令ニ準據シ可取扱筈ニ有之而シテ同年七月内三訓第二八〇號訓令寄留者ノ出產并死亡届ヲ右訓令第二十六號ニ依リ本籍地ヨリ寄留地へ送付スル場合ニ限り其謄本ヲ送附シ若クハ其通知ヲ爲サシムル等便宜取扱フヘシ

訓令第十六號 (明治三十年二月廿六日)

市 町村

甲地本籍人ニシテ乙地ニ寄留ノ者乙地ヲ退去シ更ニ兩地へ寄留ノ届出ヲナストキハ甲本籍地市町村長ハ其趣ヲ乙地ニ通知スヘシ

訓令第四十九號 (明治三十一年九月九日)

郡市町村

戶籍法第百八十九條ニ依リ戶籍吏ニ於テ除籍ノ手續ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ一週間以内ニ左ノ事項ヲ詳記シ新管轄ノ區長又ハ市町村長ニ報告ス可シ

- 一 徵兵検査假決ノ事項
- 一 現役及豫後備兵種年度番號
- 一 補充兵種別年度番號
- 一 海軍志願兵并ニ其兵種年度
- 一 一年志願兵及六週間現役ニ服セシ者
- 一 陸海軍諸生徒
- 一 二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘ又ハ現役中ノ者

- 一 犯罪既決ノ事項并ニ宣告ノ年月日
  - 一 其他兵事ノ必要ノ事項
  - 一 復權ノ得サル家資分散若ハ破産者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ及其相續人
  - 一 種痘天然痘濟未濟ノ顛末
- 内一訓第三八九號 (明治三十二年九月二十三日) 郡 市
- 本年九月内務省令第五十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲シ及歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セントスル願書ヲ差出シタルトキハ其役所ニ於テ法律ニ掲ケタル條件及其目的又ハ歸化人ト共ニ國籍ヲ取得スヘキ者(妻子)アルトキハ其品行年齢職業等詳細取調具申スヘシ
- 警々訓第四七號 (明治三十三年三月二日) 警察部 教習所  
警察部 全分署
- 巡查ニシテ妻ヲ娶リ若クハ娼養子タラントスルモノハ前以テ其婦タルヘキ者ノ原籍住所職業身分氏名年齢ヲ記シ所屬署長(警察部ハ警察部長 教習所ハ教習所長)ニ届出認可ヲ受ケヘシ
- 警々訓第四八號 (明治三十三年三月二日) 警察部 教習所  
警察署 全分署  
巡查轉籍移住又ハ其家族ニ異動アリタル時ハ三日以内ニ其旨所屬署長ニ(警察部警察部長 教習所)ニ届出ヘシ

### 移民及海外渡航



告諭 (明治廿五年七月七日)

北米合衆國ニ於テハ千八百八十五年外國人契約労働者移住禁止條例(二十四年六月二十九日官報外報欄内ニ掲載アリ)ヲ發付シ右ニ違犯ノ徒ハ何國人ニ不拘渾テ上陸拒絕ノ處千八百九十一年ニ至リ該條例ノ追加條例(二十四年六月十六日官報外報欄内ニ掲載シアリ)ヲ制定シ契約労働者ノ移住禁止ヲ一層嚴重ニ實施セシ趣然ルニ爾來本邦各府縣下ヨリ陸續渡米セシ者ノ内桑港到着ノ上検査ニ當リ條例違犯ノ廉ヲ以テ上陸ヲ拒絕セラレ空シク歸國セシ者不尠且近來本邦人渡航者ノ數多キヲ以テ其筋ニテハ猶一層嚴重ナル検査ヲ施行シ違犯者ヲ送還セントスルノ狀況アル由是レ蓋シ右等渡米者カ未タ能ク該條例ノ何タルヲ知ラサルニ起因スルモノニシテ其弊ヤ單ニ渡米者自身カ上陸ヲ禁セラレ莫大ノ旅費ヲ失ヒ進退ニ窮スルノ不幸ニ遭遇スルノミナラス終ニハ之レカ爲メ帝國ノ名譽ヲモ毀傷セラル、ニ至ルノ虞ナシトモ云ヒ難シ就テハ此際渡米志望者ニ於テ第一必要トスル處ハ該條例ノ主旨條項ヲ熟知スルニアリ即チ其要領ヲ擧クレハ白痴瘋癲及貧困者若クハ公共ノ扶助ヲ受クルノ虞アル者嫌惡スヘキ疾病又ハ危險ナル傳染病重罪又ハ破廉耻罪ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ始メ直接又ハ間接ニ契約ヲ結ヒ一定ノ給料又ハ就役ノ場所ヲ定メ又ハ其豫約ヲ爲シ或ハ書面口頭ノ勧誘ニ依リ渡來シタル者ハ契約移住者ニ該當スヘキモノト認定シテ上陸ヲ禁セラル、コト等ナリトス依テ此等ノ條項ニ牴觸スルモノハ勿論其他牴觸セサルモノト雖トモ確實ノ目的ナキ者ニ於テハ漠然渡航ヲ企テ一身ノ不幸ニ陥リ遂ニ我國體ニ

モ關係ヲ來スカ如キ不都合ヲ生セサル様注意スヘシ

内三訓第四四三號 (明治廿九年十二月四日)

市町村

本年十一月内務省令第十一號ヲ以テ明治十九年内務省令第十九號へ第九條追加相成候ニ付テハ市役所町村役場ニ於テハ外國渡航人名簿ヲ調製シ渡航又ハ歸朝ノ届出アリタルトキハ戶籍取扱手續第二十三條出寄留簿及第二十四條出寄留者復歸記載例ニ依リ取扱其届書ハ總テ便宜編綴保存スヘシ

訓令第十四號 (明治三十一年二月十二日)

郡市

今般内務省訓令第一號ヲ以テ北海道移住民漁車漁船賃割引券下付ノ義訓令相成候ニ付郡市ニ於テハ左之通相心得取扱フヘシ

北海道移住民漁車漁船賃割引券取扱心得

第一條 割引券ハ左ノ事項ニ該當スルモノニ限り下付スヘシ

一 一時ノ出稼ニアラサル者

二 生業ノ目的ヲ以テ移住スル者

三 移住ニ要スル旅費ヲ辨シ得ル者

第二條 内務省告示第九號第三條第二項ニ依リ特ニ乗降地ヲ指定シタルトキハ乗車五日以前ニ其乗降スヘキ驛名並ニ乗車人員ヲ鐵道作業局運輸部へ無遲滞申報スヘシ但割引券下付後ニ在リテハ之ヲ訂正スヘシ

第三條 南和鐵道ニ係ル割引券下付シタルトキハ豫メ其乗降スヘキ驛名並ニ人員ヲ



同會社へ通知スヘシ

第四條 割引券受拂簿及下付簿ヲ製シ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 受拂簿 受入年月日 員數 送越ノ廳名又ハ事由 下付員數年月日 棄却ノ事由及員數 毎月末差引現在高

二 下付簿 券面番號 下付年月日 受領人住所、身分、職業、移住、目的、氏名、年齡

第五條 毎年末一ヶ年分ノ受拂表及下付表ヲ製シ翌月五日マテニ當廳へ差出スヘシ  
第六條 割引券ハ向後内務省北海道局へ直ニ請求スヘシ

(受拂簿様式)

瀛車瀛船割引券受拂簿

| 受入年月日 | 全員數 | 送越廳名又ハ事由 | 下付年月日 | 全員數 | 全人名又ハ棄却事由   | 差引殘高 |
|-------|-----|----------|-------|-----|-------------|------|
|       |     |          |       |     |             |      |
| 計     |     |          |       |     | 下付ト棄却ヲ別記スヘシ |      |

(下付簿様式)

瀛車瀛船割引券下付簿

| 券面番號 | 付下年月日 | 受領人住所 | 身分 | 職業 | 移住目的 | 氏名 | 年齢 |
|------|-------|-------|----|----|------|----|----|
|      |       |       |    |    |      |    |    |
| 計    |       |       |    |    |      |    |    |

(受拂表様式)

北海道移住民瀛車瀛船割引券受拂表

明治何年分

| 受      |       | 拂      |          |
|--------|-------|--------|----------|
| 前年ヨリ越高 | 本年中受高 | 本年中下付高 | 同書損其他棄却高 |
|        |       |        |          |
| 計      |       | 現在高    |          |

(下付表様式)

北海道移住民瀛車瀛船割引券下付表

明治何年分



| 計 | 移國郡名 |   | 業漁 | 業工 | 業商 | 業其 | 他 | 計 |
|---|------|---|----|----|----|----|---|---|
|   | 乙    | 甲 |    |    |    |    |   |   |
|   | 乙    | 甲 | 業漁 | 業工 | 業商 | 業其 | 他 | 計 |
|   | 、    | 、 | 、  | 、  | 、  | 、  | 、 | 、 |

(備考) 甲ハ移住前ノ現業乙ハ移住目的ノ職業各欄ニ該當人員ヲ掲記スヘシ

本表合計欄ノ甲及乙ノ人員各吻合シ且受拂表ノ本年中下付高ニ吻合ヲ要ス

告示第九十五號 (明治三十一年十二月十日)

海外へ渡航スルモノニシテ露國領域内ニ入ラントスルモノハ(サガールン嶋漁業場ニ雇ハル、職工ノ外)總テ在本邦露國領事館ニ就キ帝國政府下付ノ旅券ニ查證ヲ受クルヲ要スル筈ニ付キ懸旅券ヲ受取リタルトキハ渡航前必ズ右查證ヲ受クヘシ  
訓令第七號 (明治二十二年二月三日) 郡市

海外旅券願ニ付テハ嘗テ訓令又ハ通牒セシメタル次第モ有之候處海外移民保護法ニ據ルモノニシテ已ニ渡航許可濟又ハ渡航願中ノモノハ兵役ノ關係朝鮮國ニ渡航スル者ニ限ルヲ除クノ外ハ別ニ取調ヲ要セス直ニ進達スヘシ  
但其渡航ニ付テ別ニ意見アルトキハ其意見ヲ副申スヘシ

行 旅

明治三十二年訓令第十六號ニテ割書追加

訓令第三十三號 (明治三十二年七月一日)

郡市町村

行旅病人行旅死亡人及全伴者ノ救護并ニ取扱手續左ノ通之ヲ定ム

但シ明治二十九年本縣訓令第六十一號行旅死亡人并ニ行旅病人取扱手續ハ之ヲ廢止ス

第一條 行旅病人行旅死亡人及其同伴者ノ救護若クハ取扱ニ關スル繰替費用ノ種目及限度ハ左ノ如シ

前項ノ費用ニシテ外國人ニ屬スルモノハ一時其市町村ニ於テ便宜ノ取扱ヲ爲シ置キ費用ニ關スル意見書及一日分費用概算仕譯書ヲ添ヘ指揮ヲ請フヘシ

一 病人及病人死亡人ノ全伴者救護費

一 診察料 一回 金貳拾錢以内

但シ次回以下ハ一回ニ付金五錢以内トス

二 手術料 全 金五錢以内

三 醫師旅費 一里ニ付 金五錢以内

但シ一里以内ハ支給ノ限ニアラス

四 日 當 一日 金四拾錢以内

但シ往復六里未滿ノ旅行ニハ泊數ニ應シテ之レヲ給ス

五 診斷書料 一通ニ付 金五錢以内

六 藥 價



- 水藥、散藥、煎藥、丸藥一日分 十二歳以上 金六錢以内
- 頓服藥、外用藥 一回 金四錢以内
- 皮下注射 一回 金七錢以内
- 七 療養ニ關スル必要品費 金四錢以内
- 八 食料 一度ニ付 金參錢以内
- 九 看護人料 一人一晝夜ニ付 金貳拾錢以内
- 但シ一日又ハ一夜ナルトキハ半額トシ人員ハ二人限リトス
- 十 被服 一枚ニ付 十二歳以上 金貳拾錢以内  
十二歳以下 金拾貳錢以内
- 十一 寢具料 一晝夜ニ付 金參拾錢以内
- 十二 病人死亡人ノ爲メ特ニ要スル薪炭油費 一晝夜 金壹錢以内
- 十三 入院料 實費
- 十四 借家料 一晝夜 金壹錢以内
- 十五 小屋掛料 金六拾錢以内
- 但シ不用ニ至ラハ之ヲ賣却シ救護又ハ死亡人取扱費ヨリ扣除スヘシ
- 十六 護送及運般ニ關スル諸費 但シ護送ハ送還費ニ準シ運搬ハ金貳拾錢以内トス
- 一 死亡人ニ關スル費用

明治三十二年勅令  
第四十四號ニテ六  
項追加

- 一 番人料 一人一晝夜ニ付 金貳拾錢以内
- 但シ一日又ハ一夜ハ半額トシ晝間ハ一人ニ限リ夜間ハ二人ヲ越ユヘカラス
- 二 死体檢按料及檢按書料 金貳拾五錢以内
- 三 假土葬及火葬ニ關スル費用 金九拾錢以内
- 四 墓標代 金八錢以内
- 五 公告料 實費
- 但シ公告ハ兩日兩度トス
- 一 引取費及送還費
- 一 被救護者付添人 晝食料 十二歳以上 金五錢以内  
付添人 十一歳以下 金參錢以内
- 二 全宿泊料 金拾八錢以内
- 三 全瀛車賃 金拾五錢以内
- 四 全和船賃 下等實費
- 五 病人車駕賃 和船賃 金五錢以内  
人力車一里 金拾錢以内
- 但シ車駕ハ病人全ク歩行ニ堪ヘサル場合ニ限リ駕ハ人力車ヲ用ユルコト能ハサルトキニ限ル
- 六 被救護者付添人給 一人一日 金貳拾錢以内
- 第二條 費用計算書ハ第一號又ハ第三號書式ニ依リ調製スヘシ
- 第三條 縣費ヲ以テ支辨スヘキ費用ノ請求ヲ爲ストキハ費用計算書ノ外第二號書式



ニ依リ被救護者ノ身元調書其他關係書類ヲ添付スヘシ  
被救護者又ハ扶養義務者ニ於テ救護費用ノ全部ヲ辨償シ能ハサルトキ其不足額ノ  
請求ヲ爲ス場合ニ於テハ前項添付書類ノ外第二號書式ニ依リ扶養義務者ノ身元調  
書ヲ添付スヘシ

相續人又ハ扶養義務者ニ於テ行旅死亡人取扱費ノ全部ヲ辨償シ能ハサルトキ又ハ  
金錢及遺留物件ノ賣却代ヲ以テ之レニ充ツルモ仍ホ不足額ヲ生シ之レカ辨償ヲ請  
求スル場合ハ前項ヲ準用ス

第四條 行旅死亡人ノ遺留ニ係ル有價証券及見積價額五圓未滿ノ物品ハ競賣ニ付セ  
スシテ處分スルコトヲ得

第五條 本縣ニ於テ引取ヘキ被救護者ハ其住所又ハ居所ヲ管轄スル市町村長ヲシテ  
引取ヲナサシムルコトアルヘシ

第一號書式

行旅病人(及行旅死亡人、行旅病人死亡人全伴者)救護費

(并ニ行旅死亡人取扱費)

計算書

一金何程 住所居所不詳男女又ハ 何府縣何郡市  
區町村何某

内譯

金何程

診察料

但初診一回次回以下何回

金何程

手術料

但何回

金何程

醫師旅費

但何里(何地ヨリ何地迄何里何寸)

(以下此書式ニ倣フ)

一金何程

内譯

金何程

死亡人遺金(病人又ハ病人死亡人全伴者所持金)

金何程

相續人又ハ扶養義務者辨償金

一金何程

内譯

金何程

不用小屋公賣代金

金何程

遺留物件(所持物件)賣却代金

差引金何程

右ノ通ニ候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

第二號書式

身元調書



何縣何郡(市)何町村大字何番  
戸身分職業

姓名

一 建物何坪 本人所有(又ハ借宅)

此時價(借家賃)何程(但シ本人所有ニシテ賃入書入ニ屬スルモノハ其賃ノ金額)

一 宅地何坪 本人所有(又ハ借地)

此時價(借地料)何程(但シ書入賃入ニ屬スルモノハ前項ニ全シ)

一 動産不動産ノ數量價格及受作ノ地種反別

但シ書入賃入ニ屬スルモノハ前項ニ全シ

一 平素生計ノ景況

家族各人ニ付其從事セル職業及其收入其外他ノ救助ヲ受ケタルコトアレハ詳細ノ事實

一 國稅縣稅町村稅等ノ納否及其金額

一 親戚ノ住所氏名及其續柄及其貧富ノ度合

右ノ通ニ候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

第三號書式

取引(又ハ送還)費計算書

一 金何程  
内譯  
金何程  
金何程  
一 金何程  
差引金何程

(以下此書式ニ倣フ)

被救護者又ハ扶養義務者辨償金

旅費内譯参照表

| 發着月日 | 發着地名 | 夜宿 |      | 泊  | 汽車船船賃 | 車賃 | 賃   | 計   |
|------|------|----|------|----|-------|----|-----|-----|
|      |      | 地名 | 一度料金 |    |       |    |     |     |
| 月 日  | 何地   | 何地 | 何地   | 何地 | 何哩    | 何里 | 金何程 |     |
|      | 何地   | 何地 | 何地   | 何地 | 何哩    | 何里 | 金何程 |     |
| 合計   |      |    |      |    |       |    | 金何程 | 金何程 |

右之通ニ候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

訓令第五十五號 (明治三十二年十月十三日)

郡市町村



外國人タル行旅病人行旅死亡人及其同伴者並其所持物件若クハ遺留物取扱ニ關シテハ法令及訓令之外獨逸白耳義ノ兩國國民ニ限リ該國領事務條約ノ規定ニ據ルヘキモノナレハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一 行旅死亡者アルトキハ市町村長ハ相當官吏ノ立會ヲ求メ其遺留品ノ調査ヲ遂ケ目錄ヲ調製捺印ヲナシ其物件ハ市町村長ニ於テ一時保管スヘシ  
物件目錄ハ其正當ノ謄本ニ死亡證及死亡者ノ國籍ヲ證明スヘキ一切ノ書類ヲ添ヘ直ニ届出ツヘシ

二 行旅死亡人ノ遺留物件ニシテ保管中滅盡若ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其保管ニ不相當ノ費用又ハ手数料ヲ要スルト認ムルトキハ詳細事實ヲ具シ指揮ヲ受クヘシ

### 愛媛縣令規類纂下卷終

### 愛媛縣令規類纂下卷正誤

| 頁數 | 行數 | 正                    | 誤                |
|----|----|----------------------|------------------|
| 四  |    | 下段六行モノトスハモノナシノ誤      | 四九 一〇 條ノ下各ヲ脱ス    |
| 六  | 六  | 又此病ノ下トハハノ誤           | 四〇 發達ハ送ノ誤        |
| 七  | 一五 | 主治ハ主七ノ誤              | 四一 出診治ノ下末ハ衍      |
| 八  | 一三 | 別號ハ別紙ノ誤              | 四二 警察ノ下官ヲ脱ス      |
| 一一 | 六  | 取締ハ扱ノ誤               | 四三 及ノ下其ヲ脱ス       |
| 一二 | 一七 | 規則ハ定ノ誤               | 四四 書ノ下ヲハノノ誤      |
| 一四 | 一五 | 豫法ハ豫防ノ誤              | 四五 壹圓貳拾ノ下五ヲ脱ス    |
| 二三 | 一〇 | 主治ハ主七ノ誤              | 四六 無資格者ノ下ニハナノ誤   |
| 二七 |    | 訓令第九號ハ掲載スヘカラサル件ニ付取消シ | 四七 警察官吏ノ下郡吏ヲ脱ス   |
| 三二 | 九  | 第一ノ下期ハ第一ノ字ニ續クベキモノ    | 四八 九罫目流産ノ下褥ハ死産ノ誤 |
| 三二 | 一七 | 手續ハ段ノ誤               | 四九 工ノ下業ハ等ノ誤      |
| 三八 |    | 甲種三中行目亡ハ者ノ誤          | 五〇 記スハ冠スノ誤       |
|    |    |                      | 五一 若シノ下死ハ鬼ノ誤     |
|    |    |                      | 五二 期限ノ下中ヲ脱ス      |
|    |    |                      | 五三 錠ハ錠ノ誤         |

〇正 誤



|     |   |                |
|-----|---|----------------|
| 一三一 | 四 | 做ハ患ノ誤          |
| 一三一 | 五 | 患ハ傲ノ誤          |
| 一三五 | 六 | 警察ノ下官ヲ脱ス       |
| 一三七 | 三 | 七月四日ハ十二月二十七日ノ誤 |
| 一四一 | 四 | 醫ノ下死ハ師ノ誤       |
| 一四一 | 五 | 産婆ノ下フヲ脱ス       |
| 一四六 | 五 | 待ハ得ノ誤          |
| 一五六 | 一 | 許可ハ認可ノ誤        |
| 一五九 | 七 | 檢印ハ診ノ誤         |
| 一八一 | 三 | 公民ノ下中ヲ脱ス       |
| 一八三 | 八 | 細則ハ規則ノ誤        |
| 一八三 | 七 | 沈泥ハ汚泥ノ誤        |
| 一八四 | 六 | 縣令ハ訓令ノ誤        |
| 二〇〇 | 八 | 表中十野目上ノ〇ハ衍     |
| 二〇二 | 一 | 八月ハ四月ノ誤        |
| 二〇五 | 一 | 圈点ハ衍           |
| 二〇七 | 一 | 全上             |

|     |    |                |
|-----|----|----------------|
| 二〇九 | 一三 | 全上             |
| 二一二 | 二  | 文ノ下章ヲ脱ス        |
| 二一三 | 二  | 本會ハ令ノ誤         |
| 二二三 | 二  | 第學年ハ第三學年ノ誤     |
| 二二四 | 四  | 退校ハ退學ノ誤        |
| 二二四 | 七  | 校子ハ椅子ノ誤        |
| 二三三 | 七  | 化合物ノ下ノヲ脱ス      |
| 二三五 | 一  | 一行上ヨリ四段中央二八三ノ誤 |
| 二三八 | 四  | 成蹟ノ下表ハ衍        |
| 二四〇 | 九  | 村ノ下何ヲ脱ス        |
| 二四一 | 六  | 學校ハ御校ノ誤        |
| 二四二 | 四  | 金額ハ全額ノ誤        |
| 二四七 | 六  | 中學校三字一行ヲ脱ス     |
| 二五七 | 六  | 授業ハ學業ノ誤        |
| 二六四 | 一  | 二ノ上各×印ヲ脱ス      |
| 二六四 | 五  | 身修ハ自修ノ誤        |
| 二六八 | 一  | 表中八野目裁方ノ肩ニ〇ヲ脱  |

|     |    |                               |
|-----|----|-------------------------------|
| 二七〇 | 一〇 | 前條ハ學校ノ誤                       |
| 二七〇 | 一六 | 超象ハ超衆ノ誤                       |
| 二七五 | 一〇 | 廿四年ハ十四年ノ誤                     |
| 二七六 | 一  | 轉ハ轄ノ誤                         |
| 二八八 | 一〇 | 科目ノ欄外(三十四年縣令第五號ニテ以下改正)ノ十五字ヲ脱ス |
| 二八九 | 一〇 | 年月ノ下日ヲ脱ス                      |
| 二九〇 | 一〇 | 下段一行卷三三拾錢トアルハ卷三拾錢ノ誤           |
| 二九〇 | 一〇 | 下段十一行二十八日ハ二十九日ノ誤              |
| 二九四 | 四  | 上段初行甲種ノ二字ヲ脱ス                  |
| 二九八 | 四  | 乙ノ下大ハ全ノ誤                      |
| 二九八 | 九  | 年月日ヲ下モヲ脱ス                     |
| 三〇五 | 二  | 多カササレハルノ誤                     |
| 三〇九 | 一〇 | 高等ハ高等ノ誤                       |

|     |    |                                  |
|-----|----|----------------------------------|
| 三一三 | 一二 | 修專ハ業ノ誤                           |
| 三一四 | 八  | 伺市ハ何市ノ誤                          |
| 三一六 | 二  | 下段適セスハ適合セスノ誤                     |
| 三一六 | 七  | 童兒ハ兒童ノ誤                          |
| 三二四 | 九  | 三時ハ二ノ誤                           |
| 三二六 | 九  | 七十五號ハ九ノ誤                         |
| 三二七 | 一八 | 其科目ハ某ノ誤                          |
| 三二九 | 八  | 色育ハ盲ノ誤                           |
| 三三三 | 八  | 面積ヲシテノ下其ハ衍                       |
| 三四七 | 二  | 通常ハ學ノ誤                           |
| 三五四 | 五  | 學教ハ校ノ誤                           |
| 三五五 | 五  | 欄外文部省令第二號ハ文部省訓令第二號ノ誤全及令ハ勅令全勅ハ及ノ誤 |
| 三五九 | 一  | 初行定ムノ下ヘシヲ脱ス                      |
| 三六〇 | 一  | 末行勅語ノ下ハハ衍                        |
| 三六五 | 一  | 欄外内三訓第七號ノ下ニテヲ脱ス                  |



三七〇 四 括弧内ノ表ハ括弧外ノ誤  
 三七一 四 野中何郡縣府等トアルハ各何  
 三八一 一六 府縣郡等ノ誤  
 三八六 五 則册ハ別册ノ誤  
 三九六 五 株ハ株ノ誤  
 三九五 五 欄外点測ハ測点ノ誤  
 三九六 一四 別數ハ筆數ノ誤  
 四〇〇 一四 數筆ハ筆數ノ誤  
 四〇九 一六 教說ハ說教ノ誤  
 四一四 二 名ノ下受ヲ脱ス  
 四二二 四 覆ハ覆ノ誤  
 四二二 二 二行ノ上年月日ヲ脱ス  
 四二三 一四 欄外何某ノ下ヘテ脱ス  
 四二七 一四 地失ハ先ノ誤  
 四三二 一五 典ハ與ノ誤  
 四三二 一 文ハ丈ノ誤  
 四三二 三 三十二ノ下號ヲ脱ス  
 四三二 一三 秩ハ秣ノ誤

四三六 三 參圍ノ上金ヲ脱ス  
 四三六 九 欄ノ下樘ヲ脱ス  
 四三六 一〇 樘ノ下樘ヲ脱ス  
 四三九 一〇 郡ノ下何ハ町ノ誤  
 四四一 五 但ハ衍  
 四四一 二 擇伐ノ下ハハ衍  
 四四三 二 四野目立木ノ下作ハ竹ノ誤  
 四四五 一〇 今般ノ下町々ハ何々ノ誤  
 四五一 二 四野研ハ研伐ノ誤  
 四五二 二 擇伐ノ下木ハ岡ノ誤  
 四五五 二 二野二行粘ノ下土ハ衍  
 四五五 十二 二野二行減ハ減ノ誤  
 四九九 備考一行可成ノ下禁ハ衍ニシ  
 四六〇 五 テ禁ノ下ニ水ヲ脱ス  
 四六二 二 而シテ下ヲハテノ誤  
 四六二 五 二十一ノ下大ヲ脱ス  
 四六二 六 坊ハ防ノ誤  
 四六二 坊ハ防ノ誤

四六二 末行三月ハ八月ノ誤  
 四六二 末行各郡ノ二字ヲ脱ス  
 四六三 第二部收入ノ五字ヘ「」ヲ脱ス  
 四六九 一 何何ハ何日ノ誤  
 四七一 七 交ハ其ノ誤  
 四七三 凡例三行標札ハ杭ノ誤  
 四七五 末行明治ノ下三ハ二ノ誤  
 四八〇 七 捺ノ下印ヲ脱ス  
 四八二 二 明ノ下細ヲ脱ス  
 四八二 一四 曹ハ遭ノ誤  
 四八三 一四 曹ハ遭ノ誤  
 四八七 八 愛ハ受ノ誤  
 四八七 八 壞ハ壞ノ誤  
 四九一 九 欄外示告ハ告示ノ誤  
 四九一 九 割書償了ノ下セサルハセルノ誤  
 四九二 五 檢査後ノ保險ノ下ヲ脱ス  
 四九五 訓令五十二號ノ欄外(三十一  
 年訓令第六十二號ニテ各條中

四九六 四 改正)十八字ヲ脱ス  
 四九七 四 式ノ下ニテ脱シ做ノ下ニハ衍  
 四九九 三 未濟ハ未滿ノ誤  
 四九九 小計ノ欄何何何錢ハ何拾何ノ誤  
 五〇〇 五〇頁ハ五〇〇頁ノ誤  
 五〇一 二 二野目暮ノ下戸ハ手ノ誤  
 五〇七 二 氏名ノ下印ハ衍  
 五一八 八 七月ノ下三日ハ十日ノ誤  
 五一九 七 監獄ノ下又ハ支ノ誤  
 五三四 一七 壞ハ壞ノ誤  
 五三八 一一 漂着ノ下届ヲ脱ス  
 五三九 六 壞ハ壞ノ誤  
 五五三 一五 五六ノ二行ハ衍  
 五五七 一五 一尺ノ下以上ハ以内ノ誤  
 五五八 四 免許ハ允ノ誤  
 五五九 一 通行ノ下停ヲ脱ス  
 五六〇 一〇 二十一條ハ二ノ誤



|     |               |      |    |
|-----|---------------|------|----|
| 五六二 | 五十條ノ次へ        | 第五〇章 | 罰例 |
| 五六三 | ノ五字ヲ脱ス        |      |    |
| 五六四 | 上ハ止ノ誤         |      |    |
| 五六五 | 花ハ無ノ誤         |      |    |
| 五六六 | 人ノ下民ヲ脱ス       |      |    |
| 五六八 | 笠郡ハ郡笠ノ誤       |      |    |
| 五七〇 | 道里ハ里道ノ誤       |      |    |
| 五七四 | 告諭ハ第十五類農事ノ部ニ入 |      |    |
| 五七七 | ルヘキモノトス       |      |    |
| 五七七 | 落シノ下驅ヲ脱ス      |      |    |
| 五七七 | 一付ハ一反ノ誤       |      |    |
| 五七八 | トトハトキノ誤       |      |    |
| 五七八 | 五八七頁ハ五七八頁ノ誤   |      |    |
| 五八〇 | 村ノ下長ヲ脱ス       |      |    |
| 五八三 | アラスノ下又ヲ脱ス     |      |    |
| 五八五 | 二野目大字ノ下余土ハ戸ノ誤 |      |    |
| 五八六 | 驅除ノ下豫ヲ脱ス      |      |    |
| 五八八 | 割書製紙ハ系原紙ハ種ノ誤  |      |    |

|     |    |               |
|-----|----|---------------|
| 五九三 | 一四 | 燻ノ下スハ蒸ノ下へ入ルベキ |
| 五九四 | 六  | 本精ハ水ノ誤        |
| 五九四 | 二  | 注様ハ様注ノ誤       |
| 五九六 | 六  | 蠶ノ下病ヲ脱ス       |
| 五九六 | 七  | 生シタルノ下病ハ衍     |
| 五九七 | 三  | 蠶種製造者製造者ハ所ノ誤  |
| 五九八 | 一〇 | 蠶繭ハ種ノ誤        |
| 五九八 | 一二 | 蠶帳ハ紙ノ誤        |
| 五九八 | 一六 | 蠶繭ハ種ノ誤        |
| 五九九 | 一  | 一方ハ蛾ノ誤        |
| 六〇〇 | 七  | 添ヘノ下蠶種ヲ脱ス     |
| 六〇〇 | 八  | 請求ノ下書ヲ脱シ届ノ下出ハ |
| 六〇四 | 二  | 書ノ誤           |
| 六〇四 | 八  | 検査ノ下書ハ所ノ誤     |
| 六〇四 | 二  | 五段蛾數ハ蟻ノ誤      |
| 六〇四 | 誤  | 五號書式中一野目死性ハ化ノ |

|     |    |               |
|-----|----|---------------|
| 六〇九 | 七  | 自今ハ目ノ誤        |
| 六一〇 | 八  | 患ハ惡ノ誤         |
| 六一一 | 一七 | 二項ノ下第八衍       |
| 六一四 | 一四 | 血總ハ統ノ誤        |
| 六一四 | 一四 | 割書牡牛及牝七トアルハ牡馬 |
| 六一五 | 一八 | 牝馬ノ誤          |
| 六一六 | 一  | 市役所ハ町村ノ誤      |
| 六一六 | 一  | 昭ハ明ノ誤         |
| 六一六 | 二  | 隣ノ下接ヲ脱ス       |
| 六一六 | 六  | 出稼ノ下ノヲ脱シモノノ下ノ |
| 六一七 | 一一 | ハ衍            |
| 六一七 | 一一 | 願書ハ出ノ誤        |
| 六一七 | 一四 | 方法ノ下書ヲ脱ス      |
| 六一七 | 一五 | 願書ハ出ノ誤        |
| 六一八 | 八  | 釣ノ上綱ヲ脱シ雜ノ下採ハ衍 |
| 六二一 | 一二 | 頭取ノ下及ヲ脱ス      |
| 六二一 | 一六 | 二ハ三ノ誤         |
| 六二二 | 七  | 第十五條ノ四字ハ衍     |

|     |    |               |
|-----|----|---------------|
| 六二三 | 一  | 委員ノ下ニハ會ノ誤     |
| 六二三 | 四  | 總代人ノ下ヲ脱ス      |
| 六二五 | 八  | 毎年何月ノ下ヨリヲ脱ス   |
| 六二六 | 二  | 三十九日ハ二十九日ノ誤   |
| 六二八 | 四  | 五分五分ハ五寸五分ノ誤   |
| 六三一 | 三  | 出願ハ相願ノ誤       |
| 六三一 | 一六 | 下ノ厚ハ幅ノ誤       |
| 六三一 | 一六 | 欄外三百三十二號ハ三百二十 |
| 六三二 | 三  | 號ノ誤           |
| 六三四 | 九  | 採取業ノ下鑛ハ衍      |
| 六三七 | 一一 | 十一日ハ十五日ノ誤     |
| 六三九 | 四  | 弊ノ下訓ヲ脱ス       |
| 六三九 | 四  | 第四條欄外二四八號ノ下ニテ |
| 六四〇 | 二  | ヲ脱ス           |
| 六四〇 | 二  | 十年ハ毎ノ誤        |
| 六四〇 | 二  | 乙ノ下種ヲ脱ス       |
| 六四一 | 二  | 甲乙ノ下區別ハ種別ノ誤   |
| 六四二 | 二  | 第三號表乙種        |



六四三 九 狩獵ノ下法ヲ脱ス  
 六四五 八 營業ハ學業ノ誤  
 六四七 一六 コトヲノ下附ハ得ノ誤  
 六四九 一 二十三年ハ二十六年ノ誤  
 六四九 二 康ハ廉ノ誤  
 六五一 一三 付キノ下之ヲノ二字衍  
 欄外第三ノ下十ヲ削リ條ノ下  
 但書ヲ加フ  
 六五二 二 取締ハ緒ノ誤  
 六五三 八 器衡ハ衡器ノ誤  
 六五四 第二號様式ニ野目直數ハ尺ノ  
 誤  
 六五六 一三 哉ノ下ニハモノ誤  
 六五七 末行修覆者ハノ下修覆ノ二字  
 ナ脱ス  
 六五九 四野目衡傍ハ衡器ノ誤  
 六六一 八 鐵道ノ下業ヲ脱ス  
 六六一 八 特ノ下別ハ例ノ誤

六六一 一五 年ノ下十二ノ割書ヲ脱ス  
 六六二 八 著貯ハ貯蓄ノ誤  
 六六四 七 組合ノ下ニハ衍  
 六六七 一〇 以前ハ内ノ誤  
 六六九 一〇 反別ノ下ニナ脱ス  
 六七〇 六 第十二條會則ヲ變更シタル  
 所ハ更ニ所轄郡長ノ認可ヲ請  
 フヘシ」ノ全條ヲ脱ス  
 六七〇 一五 美濃ノ下紙ハ形ノ誤  
 六七三 七 刑ノ下割ヲ脱ス受ケノ下ハ  
 シノ誤  
 六七三 一一 通學ヲノ下モヲ脱ス  
 六七三 一三 年ノ下ノハヲノ誤  
 六七四 八 五十三ノ下號ハ條ノ誤  
 六七四 一〇 名簿ノ下生ヲ脱シ日月ハ日  
 ノ誤  
 六七四 一一 村町ハ町村ノ誤  
 六七四 一四 戶籍寫ハ戶籍謄本ノ誤

六七五 九 徵々下定ハ衍  
 六七六 一 志願ノ下セントハ衍モノノ下  
 ヘノヲ脱ス  
 六七六 一 欲スルノ下モハ衍  
 六七六 二 十三日ハ三十日ノ誤  
 六七六 一六 病院ハ病況ノ誤  
 六七七 三 全ハ令ノ誤  
 六七七 八 警察署ハ官ノ誤  
 六七七 二 處刑ノ下濟ヲ脱ス  
 六七八 一 名籍ハ名簿ノ誤  
 六七八 四 參事員ノ下ハハニノ誤  
 六七八 一 止ノ下三ハミノ誤  
 六七九 六 三十一ノ下條ヲ脱ス  
 六七九 末行調製ノ下シテヲ脱ス  
 六八〇 一〇 也ハ他ノ誤  
 六八一 三 行目ニ全ヲ脱ス  
 六八三 一六 個ハ個ノ誤  
 六八五 七 何卒ハ何年ノ誤

六八五 一二 徵免ハ兵ノ誤  
 六八六 一四 米ノ下右ハ何石ノ誤  
 六八八 一一 全ヲ脱ス  
 六九〇 一〇 別紙ハ判紙ノ誤  
 六九三 一四 第八弟ノ誤  
 六九四 一八 痘ハ症ノ誤  
 六九七 第十七様式備考ノ一行出願ノ  
 下者ヲ脱ス  
 七〇三 二 置クノ下ハハハノ誤  
 七〇五 四 第十三條ハ第二十三條ノ誤  
 七〇五 一八 郡市ノ下町ハ長ノ誤  
 七〇八 附記一野賞典ノ下ハ衍  
 七一〇 一 野勳位ノ切ハ功ノ誤  
 七一一 一 徵集ハ發ノ誤  
 七一二 四 郡内町村ノ下ヲ脱ス  
 七一二 八 預ハ領ノ誤  
 七二四 七 歌馬ハ馬匹ノ誤  
 七二六 九 割書據ルノ下令ハ以ノ誤



|     |      |               |     |       |               |
|-----|------|---------------|-----|-------|---------------|
| 七一九 | 七    | モノトノ下スヲ脱ス     | 七三四 | 四     | 脱シ官姓名ノ下印ハ衍    |
| 七一九 | 一四   | 第七書式ノ四字ニ括弧ヲ脱ス | 七三四 | 七     | 所轄ハ所辨ノ誤       |
| 七二〇 | 一    | 地第ハ方ノ誤        | 七三五 | 六     | 召集ハ召集ノ誤       |
| 七二二 | 三    | 割書場ノ下ヌハニノ誤    | 七三八 | 一     | 統ハ統ノ誤         |
| 七二二 | 八    | 割書中トツバトシノ誤全各ノ | 七四〇 | 〇     | 二十八ノ八ハ衍       |
| 七二二 | 下第八衍 |               | 七四二 | 二     | 校名ノ下及ヲ脱ス      |
| 七二二 | 一七   | 割書中區ヲハチ區ノ誤    | 七四二 | 限ハ根ノ誤 |               |
| 七二三 | 五    | 割書中番號ノ下札ハ二ノ誤  | 七四三 | 三     | 其ノ下惡ヲ脱ス       |
| 七二三 | 六    | 割書中使用日ノ下及ハ衍ニシ | 七四三 | 五     | 陸軍ハ海軍ノ誤全豫備ノ下役 |
| 七二三 |      | テ數解雇ノ三字ヲ脱ス    | 七四四 | 七     | 水工ハ木工ノ誤       |
| 七二四 | 一三   | 末行使用ノ下地ハ衍     | 七四六 | 五     | 動産ノ下或ハ衍       |
| 七二四 |      | 割書中在テハノ下當該ノ二字 | 七四八 | 四     | 路ノ停ハ傍ノ誤       |
| 七二五 | 一六   | 何地ノ下供給地ノ三字ヲ脱ス | 七五一 | 二     | 木ハ本ノ誤         |
| 七二六 | 一六   | 末行集合ノ下地ヲ脱ス    | 七五三 | 〇     | 詳記スルハセノ誤      |
| 七二七 | 一四   | 金額ハ金額ノ誤       | 七五四 | 一七    | 境ノ下内ハ外ノ誤      |
| 七二八 | 一四   | 一ノ下日ヲ脱ス       | 七五五 | 六     | 長ノ上ニ管ヲ脱ス      |
| 七三一 |      | 末行何日ノ下於何地ノ三字ヲ | 七五五 | 八     | 目錄ノ下帳ヲ脱ス      |

|     |    |               |     |    |                                     |
|-----|----|---------------|-----|----|-------------------------------------|
| 七五五 | 九  | 有之ノ下右ヲ脱ス      | 七六九 | 九  | 欄外三十四年内ノ下一ヲ脱ス                       |
| 七五五 | 一六 | 材木ハ伐木ノ誤       | 七六九 | 九  | 繕營ハ營繕ノ誤                             |
| 七五六 | 一六 | 派出員ノ下ヨリヲ脱ス    | 七六九 | 一三 | 臨時營繕費ノ下金ヲ脱ス                         |
| 七六〇 | 一五 | 各ハ寺ノ誤         | 七七〇 | 一三 | 欄外三十三年ハ八年三ノ誤                        |
| 七六一 | 一一 | 尤以下詳具スヘシ迄ノ二十二 | 七七〇 | 二  | 末行松ハ於ノ誤                             |
| 七六一 |    | 字ハ衍           | 七七二 | 一  | 三十四年ハ二十四年ノ誤                         |
| 七六一 | 一六 | 年月日ノ下(官國幣社縣社以 | 七七二 | 一  | 社ノ下神ヲ脱ス                             |
| 七六一 |    | 下神社各字派寺院及佛堂)十 | 七七四 | 四  | 審査ノ下ニハシノ誤                           |
| 七六一 |    | 八字ヲ脱ス         | 七七四 | 一三 | 二十四年ハ七ノ誤                            |
| 七六二 | 三  | 明治七ノ下九年ハ八年九ノ誤 | 七七六 | 三  | 氏子ノ下 <small>氏子ナキトキハ信徒</small> ノ割書ヲ脱 |
| 七六二 | 三  | 十二日ハ五ノ誤       | 七七六 | 七  | 者ノ下爾ハ爾ノ誤                            |
| 七六二 | 五  | 相違ハ達ノ誤        | 七七六 | 七  | 復權ノ下シハセスノ誤                          |
| 七六二 | 一三 | 神宮ハ神官ノ誤       | 七七六 | 二  | 末行神社ハ神職ノ誤                           |
| 七六五 | 一〇 | 割書信仰ノ下人ヲ脱ス    | 七七八 | 二  | 同一神職ハ社ノ誤                            |
| 七六六 | 一三 | 榮ハ神ノ誤         | 七七九 | 二  | 終ヘノ下タハサノ誤                           |
| 七六七 |    | 欄外號ノ下テハチノ誤    | 七七九 | 一三 | 場合ノ下ニハ衍                             |
| 七六七 | 八  | 精算ノ下帳ヲ脱ス      | 七八一 | 八  | 場合ノ下ニハ衍                             |
| 七六七 | 一三 | 一社ノ下宮ヲ脱ス      | 七八一 | 一〇 | 寄贈ハ附ノ誤                              |



七八一 一五 候ノ下條ヲ脱ス  
 七八三 九 三十ノ下一ヲ脱ス  
 七八三 一〇 各種ハ社ノ誤  
 七八三 一四 愛媛縣々ノ下取締トアルハ社  
 以ノ誤  
 七八四 二 以下神職ノ下取締ヲ脱シ何ノ  
 下。市ヲ脱ス  
 七八四 七 幹事ノ下。一八二ノ誤  
 七八四 九 神社ハ職ノ誤  
 七八四 九 及ノ下支ハ衍  
 七八四 末行從ハ役ノ誤  
 七八六 末行何某ノ二字ヲ脱ス  
 七八七 一 野目住所ハ支ノ誤  
 七八九 五 申ノ下候ヲ脱ス  
 七八九 七 省ノ下乙ヲ脱ス  
 末行橋ハ檀ノ誤  
 七九〇 八 割書總入下而ハ代ノ誤  
 設ノ下キハケノ誤  
 七九二 六

七九二 八 等ハ面ノ誤  
 七九四 四 令ハ乙ノ誤  
 七九五 四 操ハ行ノ誤  
 七九七 二 割書元貫族ハ元本貫ノ誤  
 八〇〇 三 訓ノ下第ヲ脱ス  
 八〇〇 二 欄外二十二號ノ下ハヲ脱ス  
 八〇一 二 三月ハ六月ノ誤  
 八〇一 末行其ノ下月ヲ脱ス  
 八〇二 一 捨ハ拾ノ誤  
 八〇四 八 何ハ向ノ誤  
 八〇四 九 末ハ米ノ誤  
 八〇五 一三 大臣ノ下及ヲ脱ス  
 八〇六 一 木ハ水ノ誤  
 八〇七 五 一切ノ下其ヲ脱ス  
 八〇七 七 外國ハ國外ノ誤  
 八〇七 一 第十四ノ下條ヲ脱ス  
 八一五 一〇 十五分ハ十二分ノ誤  
 八二七 欄外二十二號ハ三十三號ノ誤

八一八 七 觀測ノ下スヘシハスルハノ誤  
 八二〇 一五 波ノ下雲ハ狀ノ誤  
 八二一 七 起シノ下其ヲ脱ス  
 八二六 四 一年ハ一月ノ誤  
 八二九 乙第六十五號欄外証明書ノ下  
 式ヲ脱ス  
 八三二 三 出寄留ノ下届ハ簿ノ誤  
 八三八 末行三月ハ六月ノ誤  
 八三九 一〇 寄留書ハ其届書  
 八三九 一七 送達ハ送付ノ誤  
 八四一 一行ノ前ニ市ヲ脱ス  
 八四二 六 兩ハ丙ノ誤  
 八四三 一三 後備ノ下役ヲ脱ス  
 八四三 一一 割書ニ行警察ノ下部ハ署ノ誤  
 八四三 一五 割書警察部ノ下ハヲ脱ス  
 八四四 何ノ下物ヲ脱ス  
 八四八 一〇 二十二年ハ三十二年ノ誤  
 八五〇 九 參拾錢ハ參錢ノ誤

八五四 末行取引ハ引取ノ誤  
 八五五 一一 晝夜ハ晝食ノ誤



明治三十四年十一月二十日印刷  
明治三十四年十二月 日發行

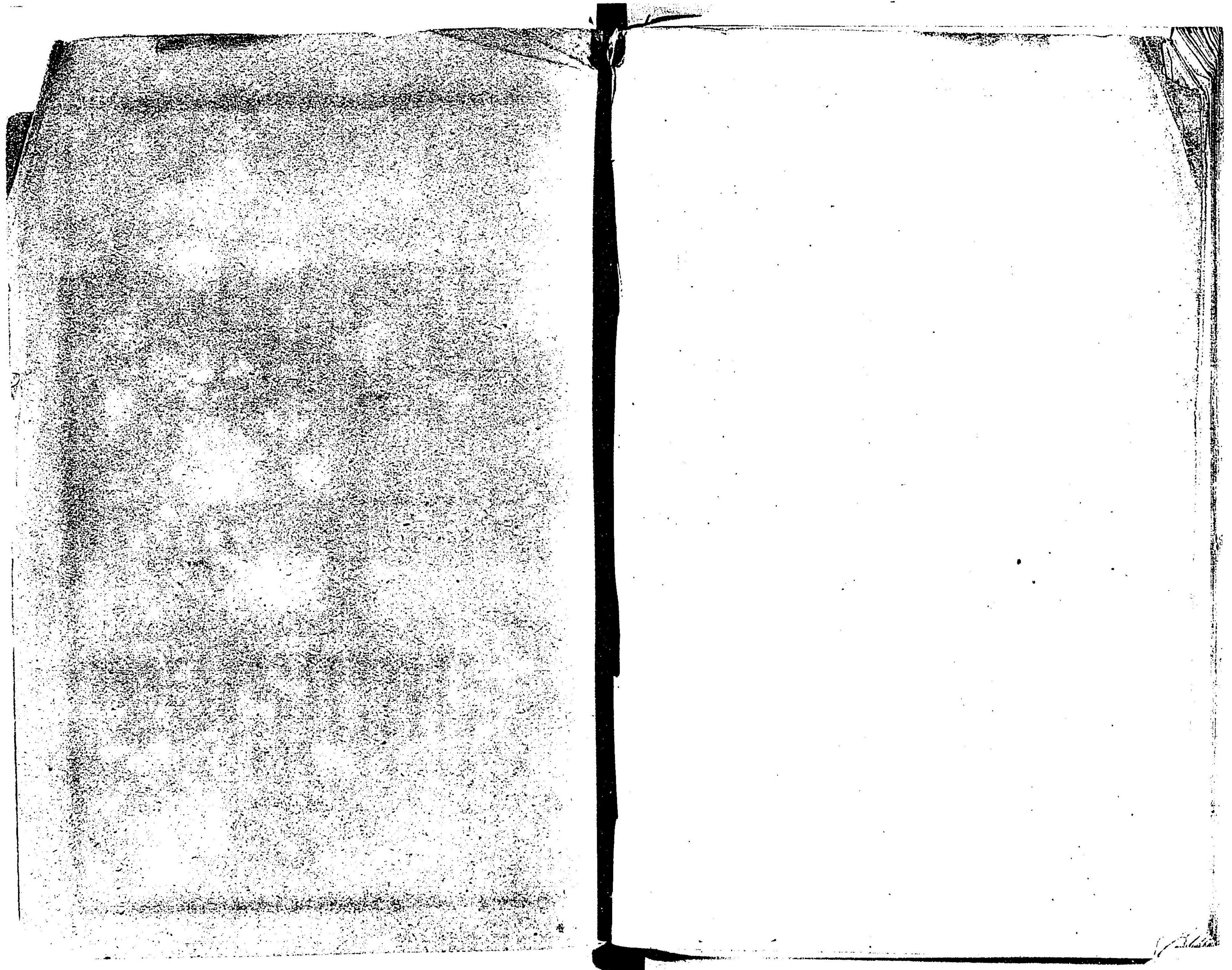
# 愛媛縣內務部第一課

印刷者兼  
出版人

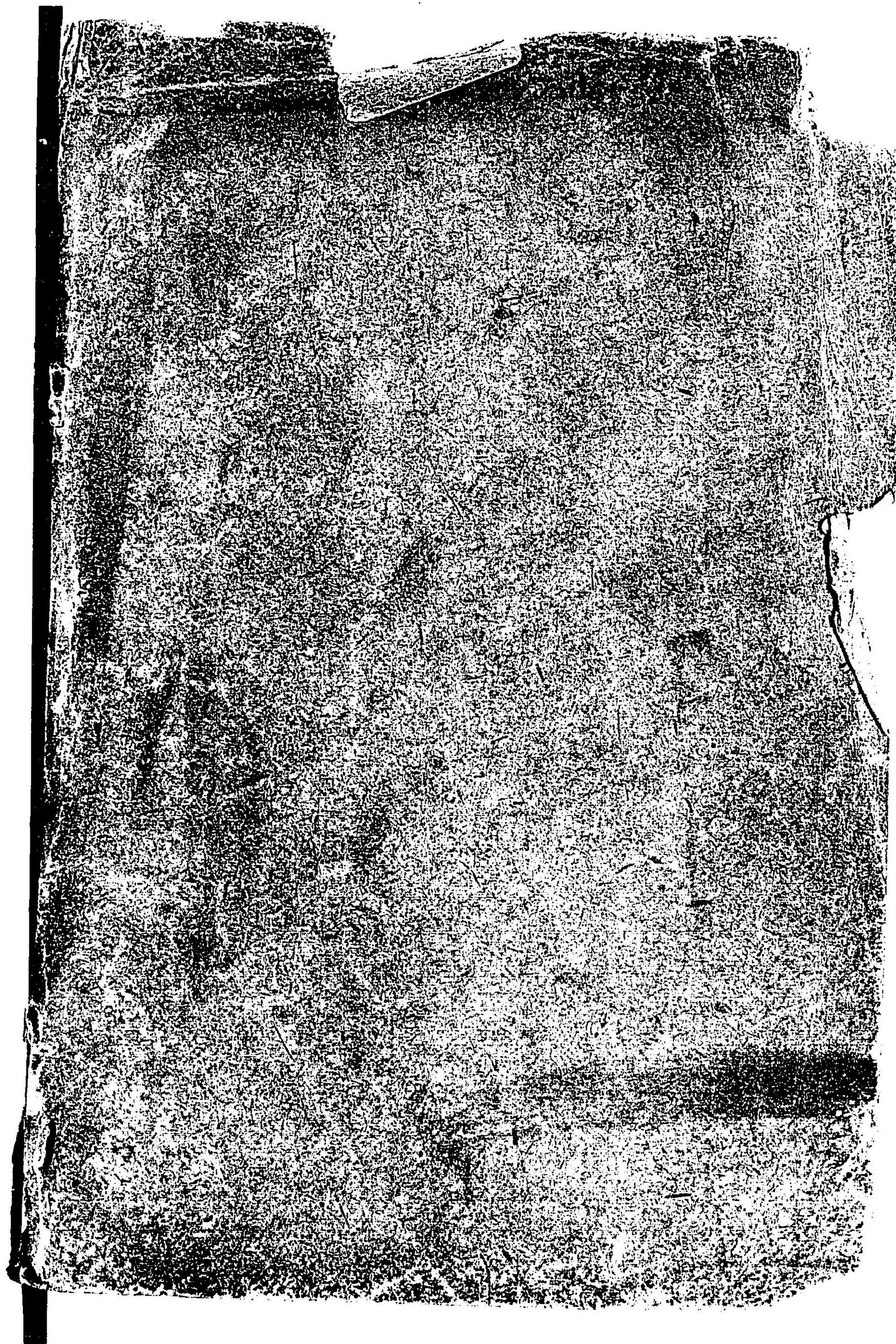
大阪市東區高麗橋二丁目六拾七番屋敷  
赤川孫兵衛

印刷所 全所 龍雲舍











221  
3  
49

禁電子式複写

031195-005-9

CZ-1113-99-010

愛媛県令規類纂

愛媛県内務部

M29-34

BBD-0160

